

令和2年度 シラバス

第1学年
普通科
研志コース

鳥取城北高等学校

| 教科名 | 国語 | 科目名 | 国語総合 | 単位数 | 5 単位 | |
|-----------------------|--|--|---|---|---|---------------------------------------|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース(探究) | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 国語を適切に表現し的確に理解する能力を養成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | 言語の教育としての立場をいつそう明確にして、表現や理解の基礎となる語句・語彙・文法・漢字の読み書きに重点を置く。さらに「理解領域」に偏らず「表現領域」を配慮して学習する。 | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 関心・意欲・態度 | 話す・聞く能力 | 書く能力 | 読む能力 | 知識・理解 | |
| | 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 | 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合つたりして、自分の考えをまとめ、深めている。 | 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 | 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 | 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。 | |
| 教科書、教材など | 『明解国語総合改訂版』(三省堂) 『明解国語総合学習課題ノート』(三省堂) 『常用国語便覧』(浜島書店) 『改訂版漢字ことば常用漢字ワイドアルファ漢字検定7級～2級』(桐原書店) | | | | | |
| 授業形態 | 講義・演習(学級単位による授業) | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | 随想(一) 『ベトナムのコーヒー屋』 『負け方を習得する』 小説(一) 『とんかつ』 | ・随想の読み方を習得する。 ・筆者の主張を捉える。 ・小説を読んで基本的な読解方法を習得する。 ・評論の読解方法を習得する。 | ・できごとと、それにに対する思いとを関連づけて捉える。 ・具体例から主張の要点を捉える。 ・登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。 ・現代社会の問題点とは何かについて、考えを深める。 | 15 | 読む能力、知識・理解で評価 |
| | 5 | 評論(一) 『魚は陸から離れない』 | ・状況と人物との関わりを把握する。 | ・エピソードの意味を理解し、現在と過去の錯綜する事実を捉える。 | 15 | 読む能力、知識・理解で評価 |
| | 6 | 隨想(二) 『ツゴイネルワイゼン』 小説(二) 『バスに乗って』 『なめとこ山の熊』 | ・会話文を手がかりに人物の心情を捉える。 | ・地の文や会話の言葉の表現上の効果に気づく。 ・生命観・人間観・自然観について理解を深める。 | 20 | 読む能力、知識・理解で評価 関心・意欲・態度、書く能力で評価 |

| | | | | | | |
|---|----|---|---|---|---------------|--|
| | 7 | 評論(二) 『水の東西』 『問題解決の心理学』 小説(三) 『羅生門』 | ・評論の読解方法を習得する。 ・小説の読解方法を習得する。 | ・文化の違いについて考える。 ・日常生活での解決を考える。 ・登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。 | 20 | 読む能力、知識・理解で評価 読む能力で評価 |
| 2 | 8 | 評論(三) 『届く言葉、届かない言葉』 9 言語活動 『情報の読み方・扱いかた』 表現の実践 『新聞を持ち寄って編集しよう』 古文入門 『児のそら寝』 『検非違使忠明』 古文に親しむ 説話と隨筆 『徒然草』 物語と日記 『伊勢物語』 『簡井簡』 11 和歌へうたう心 『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』 軍記 『平家物語』 12 漢文入門 訓読に親しむ 故事成語 『虎の威を借りる』 『蛇足』 唐詩の世界 『静夜思』 『香炉峰下』 『江南春』 | ・評論の読解方法を習得する。 ・情報を正確に読み取り、自分の考えをまとめめる。 ・新聞を読み、効果的な伝え方を話し合う。 ・古文を学習する意義を知り、今後の学習に意欲を持つ。 ・物語、説話、隨筆、日記、歌物語を読んで古典に親しむ。 ・歌に描かれた情景と思いを読み取る。 | ・「届く言葉」と「届かない言葉」の違いを考える。 ・グラフを分析し、文章にして人に伝える。 ・伝えたいことをわかりやすく的確に文章にまとめる。 ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・話の構成や、展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み取り、口語訳の力を身に付ける。 和歌の修辞について理解する。 | 5 20 20 | 読む能力、知識・理解で評価 読む能力、知識・理解で評価 読む能力、知識・理解で評価 関心・意欲・態度、読む能力で評価 読む能力、知識・理解で評価 |
| | 10 | ・漢文を学習する意義を知り、今後の学習に興味を持つ。 | ・和漢混交文について理解する。 ・古代中国人のものの見方、考え方を知り、それとの比較を通して、日本文化をより深く理解する。 | 20 | 読む能力、知識・理解で評価 | |
| 3 | 1 | ・中国古典文学の関心を高める。 ・漢詩に描かれている場面や情景を味わい、作者の心情を読み取る。 | ・故事成語や唐詩を読み取り、漢文のきまりについて理解する。 | 10 | 読む能力、知識・理解で評価 | |
| | 2 | ・人生や人間についての考え方を捉える。 | ・孔子の言葉を現代と比較して考える。 | 15 | 読む能力、知識・理解で評価 | |
| | 3 | ・人生や人間についての考え方を捉える。 | ・生き生きとした人物像を読み取る。 | 15 | | |

| 教科名 | 公民 | 科目名 | 現代社会 | 単位数 | 2 単位 | |
|-----------------------|--|---|---|---|------|--|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志(探究) | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | <p>(1) 現代社会における諸課題の中で、社会の在り方生き方を考察する基盤として、幸福・正義・公正などについて理解し、現代社会に対する関心を高めて、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚する。</p> <p>(2) 現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解するとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察する。</p> | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | a. 関心・意欲・態度 現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄に関心を高め、意欲的に追究しているか。社会的事象を総合的に考察しようとする態度を身につけているか。平和で民主的なよりよい社会に実現に向けて参加、協力する態度を身につけているか。 | b. 思考・判断・表現 現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄から課題を見出し、広い視野から多面的、多角的に考察しているか。課題について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。課題についての考察や判断の過程や結果を様々な方法で適切に表現しているか。 | c. 資料活用の技能 現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。 | d. 知識・理解 現代社会の政治、経済、社会、国際関係、人間としての在り方生き方にかかわる基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身につけているか。また、学び方を身につけているか。 | | |
| 教科書、教材など | 教科書:新現代社会(第一学習社) 資料集:最新現代社会資料集2020(第一学習社)、教科書準備ワーク | | | | | |
| 授業形態 | 講義形式 | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | 《第1編》 私たちの生きる社会 | 四つのテーマについて、身近な生活とも関連付けて理解し、それぞれの課題について、幸福、正義、公正の観点から考察する。 | 環境と私たちの生活 資源・エネルギー問題 と私たちの生活 科学技術の発達と 私たちの生命 高度情報社会と 私たちの生活 | 6 | a. 各テーマにかかわる基本的な問題に関心を高め、意欲的に追究しているか。 b. テーマについて社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。 c. 得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。 d. 各テーマの課題や事柄について理解し、その知識を身につけているか。 |
| | 5 | 《第2編》 現代社会と人間として のあり方生き方 第1章 青年期と自己の形 | 自己と社会はどのようにかかわりを持っているか。また青年としてどのように生きるべきかを考える。 | 青年期の意義 | 6 | a. 社会的事象を総合的に考察しようとする態度を身につけているか。 b. 人間にかかわる事柄から課題を見いだし、広い視野から多面的、多角的に考察しているか。 c. 得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。 |
| | 6 | 第2章 個人の尊重と 法の支配 | | 社会契約説 世界の政治体制 | 8 | d. 人間としての在り方生き方にかかわる基本的な課題や事柄について理解しているか。 |

| | | | | | | |
|---|-------------|---|---|---|-------------|--|
| | 7 8 9 | 第3章 現代の民主政治と 政治参加の意義 | 日本国憲法における三 大原理を確認し、民主社 会の実現に向けた取り組 みについて理解する。 国民主権の原理に基 づく議会制民主主義 の方法や権力分立の あり方について理解す る。 | 民主社会の原 理 と日本国憲法 日本の政治機 構 と政治参加 | 8 2 8 | a. 平和で民主的なよりよい社 会の実現に向けて参加、協 力する態度を身につけている か。 b. 課題についての考察や判 断の課程や結果を様々の方 法で適切に表現しているか。 c. 現代社会の政治にかかわ る基本的な問題に関する諸 資料を収集し、有用な情報 を適切に選択する能够性を 持っているか。 d. 現代社会の政治にかかわ る基本的な課題や事柄につ いて理解し、その知識を身に つけているか。 |
| | 10 11 | 第4章 国際政治の動向と 日本の役割 | 世界の政治体制を 理解するとともに国 際社会における日 本の立場を理解す る。 | 国際連合 国際社会 地域紛争・領土問題 | 8 8 | a. 現代社会の経済・国際関 係にかかわる事柄に关心を 高め、意欲的に追究してい る b. 現代社会の経済・国際関 係にかかわる事柄から課題 を見いだし、広い視野から多面 的、多角的に考察してい る c. 得られた資料や情報を効 果的に活用し、学び方を身に つけているか。 d. 現代社会の経済・国際関 係にかかわる基本的な課題 や事柄について理解し、その 知識を身につけているか。 |
| | 12 | 第5章 現代の経済社会と 私たちの生活 | 個人や企業がどのよう な目的で経済活動を行 っているのかを理解し、 経済活動に対して どのような責任がある のかを考察する。 | 市場経済のしくみ 豊かな社会の実現を めざして | 8 | a. 現代社会の経済・国際関 係にかかわる事柄に关心を 高め、意欲的に追究してい る b. 現代社会の経済・国際関 係にかかわる事柄から課題 を見いだし、広い視野から多面 的、多角的に考察してい る c. 得られた資料や情報を効 果的に活用し、学び方を身に つけているか。 d. 現代社会の経済・国際関 係にかかわる基本的な課題 や事柄について理解し、その 知識を身につけているか。 |
| 3 | 1 2 | 第6章 国際経済の動向と 日本の役割 第7章 民主社会に生きる倫理 | 国際経済、国際政治 の基本を理解し、日本 が国際社会において 果たすべき役割を考 察する。 先人たちの考え方を学 び、自らの価値観の幅 を広げることを目指 す。 | 国際経済の動向 国際収支と為替相場 進む地域経済統合 宗教 西洋思想 平和の追求 | 4 6 | a. 社会的事象を総合的に 考察しようとする態度を身に つけているか。 b. 人間にかかわる事柄から 課題を見いだし、広い視野か ら多面的、多角的に考察して いるか。 c. 得られた資料や情報を効 果的に活用し、学び方を身 につけているか。 d. 人間としての在り方生き 方にかかわる基本的な課題 や事柄について理解してい るか。 |
| 3 | 3 | 《第3編》 ともに生きる社会を めざして | 現代社会の課題を、 持続可能な社会の形 成に参画するという觀 点から探求する。 | 社会保障 環境保護 人口問題 | 6 | a. 社会的事象を総合的に考 察しようとする態度を身につ けているか。 b. 課題について社会の変化 や様々な立場、考え方を踏ま え公正に判断しているか。 c. 課題に関する諸資料を収 集し、有用な情報を適切に選 択し効果的に活用する能够 性を有しているか。 d. 現代社会にかかわる基本 的な課題について理解し、そ の知識を身につけているか。 また、学び方を身につけてい るか。 |

| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学I | 単位数 | 3 単位 | |
|-----------------------|---|--|---|--|------|--------------|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース(探究) | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | 『数と式』数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を理解するとともに、1次不等式及び2次方程式について理解を深め、それらを活用できるようにする。『2次関数』2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察や2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。『図形と計量』直角三角形における三角比の意義及び图形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。『データの分析』資料に対してさまざまな処理を行うことによって、これらを客観的な数値で表すことが出来るようにする。 | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | A: 数学への関心・意欲・態度 | B: 数学的な見方や考え方 | C: 数学的な表現・処理 | D: 数量・図形などについての知識・理解 | | |
| | ・数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析の理論や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的根拠に基づいて判断しようとする。 | ・数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、試行の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | ・数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。 | ・数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基本的な知識を身につけている。 | | |
| 教科書、教材など | 教科書:改訂版 最新 数学I(数研出版) 補助教材:3ROUND数学I+A | | | | | |
| 授業形態 | 講義・演習 | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | 中学校の内容の確認 | 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 | 1. 数の計算 2. 文字式 1. 整式 2. 整式の加法・減法・乗法 3. 展開の公式 4. 式の展開の工夫 5. 因数分解 6. いろいろな因数分解 7. 次数 8. 根号を含む式の計算 | 9 | A/B/C/Dの総合評価 |
| | | 第1章 数と式 第1節 数と式 | | 9 | | |
| | 5 | 第2節 1次不等式 | | 9 | | |
| | 6 | 第2章 集合と命題 | | 1. 集合と部分集合 2. 共通部分、和集合、補集合 3. 命題と集合 | 12 | |

| | | | | | | |
|---|----|--------------------------|--|--|----|--|
| | 7 | 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ | 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 | 4. 命題と証明 1. 関数 2. 関数とグラフ 3. $y=ax^2$ のグラフ 4. $y=ax^2+q$ のグラフ 5. $y=a(x-p)^2$ のグラフ 6. $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ 7. $y=ax^2+bx+c$ のグラフ 8. 2次関数の最大・最小 9. 2次関数の決定 | 12 | |
| | 8 | | | 10. 2次方程式 11. 2次関数のグラフとx軸の共有点 12. 2次不等式 13. 2次不等式の利用 | 3 | |
| 2 | 9 | 第2節 2次方程式と不等式 | | 1. 鋭角三角比 2. 三角比の利用 3. 三角比の相互関係 4. 三角比の拡張 | 12 | |
| | 10 | 第4章 図形と計量 第1節 三角比 | 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める。 | 5. 三角比が与えられたときの角 6. 正弦定理 7. 余弦定理 | 12 | |
| | 11 | 第2節 正弦定理・余弦定理 | 正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。 | 8. 三角形の面積 9. 図形の計量 | 12 | |
| | 12 | | | | 12 | |
| 3 | 1 | 第5章 データの分 | 四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明する。 | 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばり 4. 四分位範囲 | 6 | |
| | 2 | | 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて2つのデータの相関を把握し説明する。 | 5. データの相関 6. 相関係数 7. 表計算によるデータの分析 | 9 | |
| | 3 | 課題研究 | | | 9 | |

| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学A | 単位数 | 2 単位 | |
|-----------------------|--|--|--|---|------|---|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース(探究クラス) | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにとともに、それらを活用する態度を育てる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | <p>『場合の数と確率』 数え上げの原則や順列・組合せについて理解し、事象を数学的に考察できるようにする。また、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、確率を活用する能力を伸ばす。</p> <p>『図形の性質』 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。</p> <p>『整数の性質』いろいろな数を表す仕組みを学び、あわせてそれがどのように利用されているかを学ぶ。</p> | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | A: 数学への関心・意欲・態度 | B: 数学的な見方や考え方 | C: 数学的な表現・処理 | D: 数量・図形などについての知識・理解 | | |
| | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付けている。 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 | | |
| 教科書、教材など | 教科書:改訂版 最新数学A(教研出版) 補助教材:問題集 3ROUND数学 I+A(教研出版) | | | | | |
| 授業形態 | 講義・グループ学習・演習(学級単位による授業) | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 (実験・実習等) | 単元の目標 | 時間 | |
| 1 | 4 | 第1章 場合の数と確率 | 1. 集合 2. 集合の要素の個数 3. 樹形図、和の法則 4. 積の法則 5. 順列 6. 円順列と重複順列 7. 組合せ 練習問題 | ・和の法則と積の法則を理解する。また、樹形図などを用いて基本的な個数処理できる。 ・順列・組合せの数について学び、それを具体的な場面に活用する。 ・場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・独立な試行とその繰り返しについて、身近な事例をもとにして、確率の計算について理解を深める。 | 6 | 有限集合の要素の個数について、共通部分がある場合との場合に分けて学び、具体的な事象の考察ができる。 |
| | 5 | 第1節 場合の数 | 8 | 和の法則・積の法則、順列、円順列、重複順列について学び、もなく重なりなく要領よく教える方法が身につく。また組合せや同じものを含む順列について学び、論理的に考えることができる。 | | |
| | 6 | 第2節 確率 | 8 | 試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を知り、不確定な事象を数量的にとらえることができる。和事象・積事象、排反事象、余事象、確率の基本性質、確率の加法定理について、集合と関連づけ、事象を数学的に考察し処理することができる。独立な試行、反復試行を通して、具体的な事象を数学的に考察し処理することができる。 | | |
| | 7 | | | | | |
| | 8 | 第2章 図形の性質 | 13. 独立な思考の確率 14. 反復試行の確率 15. 条件付きの確率 練習問題 問題 | ・条件のつき確率について、具体例を通して、その意味を理解し、いろいろな条件つき確率を求めることができるようになる。また、身近な事例をもとに、少し複雑な確率の計算について学ぶ。 | 2 | 三角形の辺と角の大小関係、内分と外分、三角形の角の二等分線、重心・外心・内心について理解を深めるとともに、直観力・洞察力を養い、論理的 |
| | 9 | 第1節 平面図形 | 1. 角の二等分線と比 | 图形に対する直観力・洞察力を養う。 | 8 | |
| | | | | | | |

| | | | | | | |
|----|--|--|--|------------------------|---|--|
| | | | | に考察できる。 | | |
| 10 | | 2. 三角形の外心、内心、重心 3. 三角比の辺の比の定理 研究・練習問題 4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円と接線 7. 接線と弦の作る角 8. 方べきの定理 9. 2つの円 10. 作図 11. 線分の長さと作図 練習問題 | 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようになる。 | 8 | 円周角、円周角の定理の逆、内接する四角形などについて理解する。円と接線、接線と弦のつくる角、方べきの定理、2つの円について学び、活用できる。 | |
| 11 | 第2節 空間図形 | 12. 空間における直と平面 13. 多面体 研究: 正多面体が5種類である理由 練習問題 問題 課題学習 | 平面と直線の位置関係、平面と直線とのなす角や三垂線の定理などを学ぶ。古代ギリシャのプラトンの時代から正多面体(プラトン图形という)が5つしかないことが知られていたが、オイラーの定理を用いて、その理由を学ぶ。 | 8 | 空間における直線と平面が垂直になるための条件を、正四面体に当てはめて考察できる。空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。オイラーの多面体定理を利用すると、正多面体の面の形から面の数が限定されることに関心をもつ。正多面体どうしの関係を利用して、正多面体の体積を求めることができる。正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。 | |
| 12 | 第3章 整数の性 第1節 約数と倍数 第2節 ヨークリッド互除法 | 1. 約数と倍数 2. 倍数の判定法 3. 素因数分解 4. 最大公約数、最小公倍数の性質 5. 割り算における商と余り 6. 余りによる整数の分類 練習問題 7. ヨークリッドの互除法 8. 1次不定方程式 練習問題 研究 2次の不定方程式 | すべての整数は必ず素数の積に分解されて、その表し方はただ1つであることを理解する。また、2、3、4、5、6、8、9の倍数の見分け方を解する。 | 8 | 素因数分解から約数の個数や最大公約数・最小公倍数を求めることができる。ある数の倍数を文字式で表現し、整数の性質を調べ、結果を解釈できる。 | |
| 1 | 第3節 整数の性の活用 | 9. 有理数の小数表現 10. N進法 練習問題 問題 課題学習 | ヨークリッドの互除法は多くの利用価値があることを理解する。また、与えられた2数からヨークリッドの互除法を用いて最大公約数を求める手順の逆をたどれば、その2数を用いて最大公約数が表せ、二元一次不定方程式では、特殊解を記数法や小数(有限小数や無限小数)の性質を理解し、10進法をはじめ、コンピュータの原理である2進法などを学ぶ。 | 4 | ヨークリッドの互除法は整数の除法の性質に基づいているという仕組みを理解し活用する。ヨークリッドの互除法を活用し $ax+by=1$ の形の二元一次方程式の特殊解を求める。数を表す仕組みを理解する。 | |
| 2 | | | | n進法での表示や数の計算ができるようにする。 | 6 | |
| 3 | | | | | 6 | |

| 教科名 | 理科 | 科目名 | 科学と人間生活 | 単位数 | 2 単位 | |
|----------|--|---|--|--|------|--|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース(探究クラス) | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | 1 生命の科学 2 物質の科学 3 光や熱の科学 4 宇宙や地球の科学 5 課題研究 | | | | | |
| 科目の評価基準 | A : 関心・意欲・態度 自然の事物・現象に関心を持ち、科学の発展と人間生活の関係を調査・探求し、科学的な見方・考え方を身につけている。 | B : 思考・判断 自然の事物や現象に問題を見出し、実験を行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察することにより、総合的に判断することができる。 | C : 技能・表現 自然現象に関する調査・実験・観察の技能を習得するとともに、それらの過程や結果、そこから導き出された考え方を的確に表現することができる。 | D : 知識・理解 自然現象に関して、人間が長い時間をかけて獲得した知識の有用性を理解する。そして知識を得る方法についても理解し、適切に利用することができる。 | | |
| 教科書、教材など | 教科書:改訂 科学と人間生活 (東京書籍) | | | | | |
| 授業形態 | 講義形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験および問題演習を行う。 | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | |
| 1 学期 | 4 | 科学技術の発展 1編 生命の科学 (どちらかの章を選択) 1章 生物と光 | 現代の文明が科学技術によって支えられ、発展してきたことを理解する。 植物は、光合成・光屈性・花芽形成など様々な面で光と関わっていることを理解する。また、光が関わる動物の行動や、ヒトの眼の構造と働きについて学習する。 | ・植物の生育と光 ・光シグナルと生物 ・ヒトの視覚と光 | 6 | 科学の発展の歴史に興味・関心を持ち、人間生活と科学技術の関わりを主体的に学ぶことができる。 生物と光の関わりについて理解し、人間生活との結びつきを興味・関心を持ち学ぶことができる。 実験から眼球構造について実感を伴った理解をする。 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 |
| | 5 | 2章 微生物とその利用 | 微生物の存在や生態系における役割を学び、微生物が身近なものであることを知る。また、発酵食品や医薬品など様々な場で微生物が利用されていることを学習する。 | ・さまざまな微生物 ・微生物と人間のかかわり | 6 | 微生物について理解し、人間生活と結び付きを興味・関心を持ち学ぶことができる。 実験から微生物の特徴について実感を伴った理解をする。 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 |
| | 6 | 2編 物質の科学 (どちらかの章を選択) 1章 材料とその再利用 | 金属・プラスチックの特性と用途について学び、人間生活のあらゆる場で利用されていることを理解する。また、プラスチックの原料である石油資源は限りがあり、その有効利用が必要であることを学習する。 | ・金属 ・プラスチック ・資源の再利用 | 8 | 金属・プラスチックの性質について理解し、日常生活でどのように利用されているか興味・関心を持ち学ぶことができる。 実験から金属の性質について実感を伴った理解をする。 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 |
| | 7 | 2章 衣料と食品 | 衣料材料の性質や用途について学び、繊維の性質や用途の違いがどのように人間生活で利用されているか学習する。また、身近な食品中の成分について学び、食品成分と安全について学習する。 | ・衣料 ・食品 | 8 | 衣料材料、食品成分について理解し、日常生活でどのように利用されているか興味・関心を持ち学ぶことができる。 実験から食品の成分について実感を伴った理解をする。 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 |

| | | | | | | | |
|-------------|----|----------------------------|--|--|---|--|------------------|
| 2 学 期 | 8 | 3編 光や熱の科学 (どちらかの章を選択) | | | 2 | 光が持つ物理的性質や電磁波の波長の違いについて理解し、人間生活でどのように利用されているか興味・関心を持ち学ぶことができる。 実験から光の性質について実感を伴った理解をする。 | A D B C |
| | | 1章 光の性質とその利用 | スペクトルや屈折・反射など、光が持つ物理的性質を学ぶ。また、電磁波の波長の違いがどのように人間生活で利用されているかを理解する。 | ・目に見える光の世界 ・光の進み方と基本的性質 ・見えない光とその応用 | | | |
| | | 2章 熱の性質とその利用 | | | | | |
| | | 10 | 熱と温度の区別を理解し、熱の性質を学習する。さらにエネルギーが変換することと、保存することを理解し、日常で適切に用いることが出来るようになる。また、それらの性質を利用して科学技術が発展したことを理解する。 | ・熱とは何か ・熱と人間生活 | | 熱の性質を理解し、日常生活の中でどのように利用されているかに興味・関心を持ち学ぶことができる。 | A D B C |
| | 11 | 4編 宇宙や地球の科学 (どちらかの章を選択) | | | 8 | 実験から熱の性質について実感を伴った理解をする。 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 | A D B C |
| | | 1章 身近な天体と太陽系における地球 | 天体と時間の関係性、太陽について学習する。太陽が及ぼすエネルギーによって生じる大気と水の循環について理解する。 | ・天体が刻む「時」 ・太陽系の構造 ・太陽が動かす大気と水 | | | |
| | | 2章 身近な自然景観と自然災害 | 身近な自然景観が太陽の生み出すエネルギーをもとに作り出されてきたことを学習する。地震や火山のメカニズムを理解し、自然災害と人間生活の関わりを理解する。 | 身のまわりの景観の成り立ち 自然災害と人間 | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 3 学 期 | 1 | 5編 課題研究 | 科学と人間生活の間に現在生まれている新しい課題に 관심を持ち、研究を行い、研究を通して今後の科学研究や人間生活のあり方について考えることができる。 | ・下水処理と活性汚泥の研究 ・クモの糸の性質について ・風力発電に関する調査 ・身のまわりの災害と防災 | 4 | 科学と人間生活について学んだ知識をもとに、日常生活から課題を発見し探求できる。また、探求した内容をまとめ、工夫して表現できる。 | A B C D |
| | 2 | | | | 6 | | |
| | 3 | | | | 6 | | |

| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 体育 | 単位数 | 2 単位 | |
|-----------------------|---|-----------|---|--|--|----------------------------|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | ○各種の基本動作を習得し、基礎体力の向上をはかる。 ○安全と事故防止に注意し、互いに協力し合って練習・競技・ゲームができるようとする。 ○自分の健康・体力に关心を持ち、進んで運動する習慣を養い、生涯にわたって運動に親しむ基礎をつくる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | 体づくり運動、体ほぐし、体力を高める運動、各種目における基本技能の習得、各種目のルール等の知識習得、生徒の自主性によるゲーム運営と安全への意識の向上。 | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 関心・意欲・態度 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、自ら進んで計画的に運動しようとする。 | | 思考・判断 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。 | 運動技能 自己の能力と各種運動の特性に応じた技能を高め、体力向上のための合理的な行い方を身につけています。 | 知識・理解 運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけています。 | |
| 教科書、教材など | 特になし | | | | | |
| 授業形態 | 実技(男女別合併授業) | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | オリエンテーション | 年間計画を十分に理解し、授業に積極的に参加できるようにする。 | 授業の内容、方法、評価などについて説明する。 | 6 | 授業中の行動の観察 |
| | 5 | 体育理論 | スポーツの歴史、現代スポーツの特徴。 | スポーツの歴史、技術、ドーピングについて学習。 | 6 | 授業中の行動の観察 評価テスト(総時数6時間) |
| | 5 | 体づくり運動 | 体づくり運動の特性を理解し、体をほぐしたり体力を高めたりする。 | 城北体操の習得。 | 6 | 授業中の行動の観察 実技テスト |
| | 6 | 新体力テスト | 自己の体力と運動能力を把握する。 | 正しい測定を行い、自己の能力診断をする。 | 8 | 診断テスト結果 |
| | 6 | 陸上競技 | 自己の能力に応じて運動技能を高め、競技したり記録を高める。 | 各種目の基本技能の習得。 | 8 | 授業中の行動の観察 実技テスト |
| 2 | 7 | バレーボール | 自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 | 基本動作を習得し、協力してゲームができるようにする。 | 8 | 授業中の行動の観察 実技テスト |
| | 8 | ソフトボール | | | 2 | |
| | 9 | | | | 8 | |
| | 10 | サッカー | 自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 | 基本動作を習得し、協力してゲームができるようにする。 | 8 | 授業中の行動の観察 実技テスト |
| | 11 | バスケットボール | | | 8 | |
| | 12 | | | | 8 | |

| | | | | | | |
|---|-------------|---------------|--|---|-------------|--|
| 3 | 1 2 3 | バドミントン ダンス | <p>自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を開拓してゲームができるようになる。</p> <p>感情をこめて踊ったり、仲間と一緒に楽しく踊ったりし、発表できるようにする。</p> | <p>基本動作を習得し、ペアで協力してゲームができるようになる。</p> <p>ダンスの特性を理解し、基本動作やリズム感、協調性を養うようになる。</p> | 4 6 6 | <p>授業中の行動の観察 実技テスト</p> <p>授業中の行動の観察 作品の評価</p> <p>※ 年間を通しての出席状況</p> |
|---|-------------|---------------|--|---|-------------|--|

| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 保健 | 単位数 | 1 単位 | |
|-----------------------|--|--|--|--|------|---|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 個人および社会生活における健康・安全について理解を深めないようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | <p>①現代社会と健康 わが国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること、および環境を改善していく努力が必要であることを理解できるようにする。</p> | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 | | |
| | 健康に対する関心を持ち、健康を保持増進させるためには何が必要かを考え、実行できる態度が身についている。また、日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考える意欲をもつ。 | 健康についての思考を深め、その日常生活での活用方法を適切に判断し、健康行動の適切な選択ができる。 | 保健の授業を通して、必要な基本的技能を習得し、実際の場面で適切な行動がとれるようになる。 | 保健に関する基礎的な知識や、ヘルスプロモーションの理念を理解できる。また、保健に関するさまざまな分野における知識を身につけ、その役割について理解できる。 | | |
| 教科書、教材など | 教科書:最新保健体育(大修館書店)、最新保健ノート(大修館書店) | | | | | |
| 授業形態 | 教室での一斉授業、グループ学習、ビデオ学習 | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 單元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | 単元1現代社会と健康 ①健康の考え方と成り立ち | 健康とは何かについての考え方を理解する。 | WHOの健康の理念 | 3 | |
| | 5 | ②私たちの健康のすがた | 健康水準や生活習慣病について理解する。 | 健康寿命と平均寿命の違い | 3 | |
| | 6 | ③健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり | 適切な意志決定・行動選択とヘルスプロモーションについて理解する。 | ヘルスプロモーションの理念 | | |
| | 7 | ④生活習慣病の予防 | 生活習慣病を予防するための調和の取れた生活の実践ができるようにする。 | 生活習慣病を防ぐためのライフスタイル | 4 | |
| | 8 | ⑤食事と健康 | 健康に過ごすための食事や運動、休養について理解を深める。 | 自らの食生活の現状把握と、バランスの取れた食事の必要性 | | |
| | 9 | ⑥運動・休養と健康 | 健康に過ごすための食事や運動、休養について理解を深める。休養について理解を深める。 | 具体的な日常生活の振り返りと、適切な休養の必要性 | 4 | 定期考査 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する |
| 2 | 10 | ⑦喫煙と健康 | 喫煙に関する理解を深め、適切な意志決定や行動選択ができるようにする。 | たばこの有害物質から引き起こされる様々な疾病 | 1 | |

| | | | | | | |
|---|----|--------------------------------|---|---|---|---|
| | 9 | ⑧飲酒と健康 ⑨薬物乱用と健康 | 飲酒に関する理解を深め、適切な意志決定や行動選択ができるようにする。 薬物乱用に関する理解を深める | 未成年者の飲酒 アルコール摂取による心身への影響 薬物依存と薬物乱用者が引きおこす社会問題 | 4 | |
| | 10 | ⑩感染症とその予防 ⑪性感染症・エイズとその予防 | エイズを含めた感染症の予防に正しい知識が必要なことを理解する。 | 感染症予防対策についての理解(図1の活用) エイズの正しい知識と、共に生活できる社会づくりについて | 4 | |
| | 11 | ⑫欲求と適応機制 ⑬心身の相関とストレス | 欲求や適応機制には様々な種類があることを理解する。 精神と身体の密接な関連を理解する。 | 欲求不満に対する対処法(図3の活用) ストレスへの対処と心身相関 | 4 | 定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する |
| | 12 | ⑭心の健康のために ⑮交通事故の現状と要因 | ストレスに関する理解と自己実現を図るために何をすればよいかを理解する。 交通事故の要因を知り、交通事故を防止するために車両の特性や、安全な運転、自他の生命を尊重する態度および交通環境の整備などが重要であることを理解する。 | 自己実現についての理解 わが国の交通事故の特徴について(図1・2の活用) 教科書の事例をもとにした交通事故の3つの要因 | 4 | |
| 3 | 1 | ⑯交通社会を防ぐために | 交通事故の責任や補償問題を知り、加害事故を起こさないような努力が必要であることを理解する。 | 刑事上、民事上、行政上の責任について 法的整備、交通環境の整備、車両の安全性 | 2 | |
| | 2 | ⑰応急手当の意義とその基本 ⑱日常的な応急手当 | 怪我や熱中症に対する応急手当の適切な手順、方法を理解する。応急手当の意義、知識を理解する。 怪我や熱中症に対する応急手当の適切な手順、方法を理解する。 | 傷病者を発見した時に確認、観察するポイントを理解する AED(自動体外式除細動器) 怪我や熱中症に対する適切な処置 | 3 | 定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する |
| | 3 | ⑲心肺蘇生法の原理とおこない方 | 心肺蘇生法の正しい手順や方法について理解を深めるとともに、その重要性を理解する。 | 〈グループ学習〉 適切な手順の確認 ダミー人形を使った心肺蘇生法の実習 | 3 | |

| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 音楽I | 単位数 | 1単位 |
|-----------------------|--|--|--|--------------------------------------|------|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース | 履修形態 | 選択必修 |
| 科目の目標 | ・音楽に対する興味・関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。 ・音楽的感性・技能を身に付け、音楽の生み出す曲想やリズムなどの美しさを感じ取りながら表現する能力を養う。 | | | | |
| 学習内容の概要 | ・音楽理論の基礎～音楽を学習する上での最も基礎的な音楽上の決り事について学習する。 ・実技～アルトリコーダーを使用し、独奏曲や二重奏曲をグループ学習で学ぶ。 ・鑑賞～バロック時代からの作曲家の紹介と、その作品を鑑賞する。 また、音楽に関わりの深い映画を鑑賞する。 | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 意欲・関心・態度 音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。 | 芸術的な感受や表現の工夫 感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り創造的な音楽活動の工夫をする。 | 創造的な表現の技能 自己のイメージをもち創造的な表現をするための技能を身に付けている。 | 鑑賞の能力 多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。 | |
| 教科書、教材など | MOUSA1(教育芸術社) アルトリコーダー | | | | |
| 授業形態 | 講義、実技、鑑賞 | | | | |

年間授業計画

| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
|----|----|-----------------------|--------------------------------------|--|-----------------------|---|
| 1 | 4 | オリエンテーション 音楽理論の基礎① | 音楽理論の基礎を身につける。 | 五線 音符と休符 音名 基礎練習 (音階・タンギング) 二重奏 「主は冷たい土の中に」 「サウンドオブミュージック」 | 3 3 4 4 | 基礎的な音楽理論が理解できた 正確な運指とタンギングで演奏することができたか。 |
| | 5 | アルトリコーダー実技 | ハ長調の運指を覚える。 タンギングを使えるようにする。 | | | |
| | 6 | | | | | |
| | 7 | 鑑賞 | ミュージカル映画の中の音楽を味わう。 | | | ミュージカル映画の中の音楽を味わうことができたか。 |
| 2 | 8 | 音楽理論の基礎② | 音楽理論の基礎を身につける。 | 音階と調号 音程と和音 拍子 音の強弱に関する記号 速度記号 二重奏「もののけ姫」 二重奏「エーデルワイス」 「陽のある教室」 | 1 4 4 4 4 | 基礎的な音楽理論が理解できた 正確な運指とレガートで演奏することができたか。 |
| | 9 | アルトリコーダー実技 | レガート奏法を身につける。 | | | |
| | 10 | | | | | |
| | 11 | 鑑賞 | 映画と映画中の音楽を味わう。 | | | 映画の中の音楽を味わうことができたか。 |
| 3 | 1 | アルトリコーダー実技 鑑賞 | B♭の運指を覚える。 バロック時代～古典派の作曲家の作品を味わう。 | 二重奏「ビリーブ」 バッハ ヘンデル モーツアルト ベートーベン | 2 3 3 | 正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。 作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。 |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |

| 教科名 | 藝術 | 科目名 | 美術I | 単位数 | 1単位 | |
|-----------------------|---|--|--|--|------|---|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース | 履修形態 | 選択必修 | |
| 科目の目標 | 美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、描写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、美術の伝統と文化についての理解を深める。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | <ul style="list-style-type: none"> クロッキー・デッサン…手や身の回りの物、人物のクロッキー・デッサン制作を行う。 色彩構成…色彩についての学習を通じ様々な表現法を身に付け、創作活動に生かす。 有名画家の模写…有名画家の模写政策において、その歴史と文化も学び、今後制作する作品に用いる。 名画や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。 | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 意欲・関心・態度 美の創造的活動の喜びを味わい、美の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 | 芸術的な感受や表現の工夫 名画のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 | 創造的な表現の技能 創造的な色彩表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。 | 鑑賞の能力 日常生活の美術の効用や美の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、美のよさや美しさを創造的に味わっている。 | | |
| 教科書、教材など | 高校生の美術I（日本文教出版） スケッチブック、デザインセット、水彩色鉛筆 | | | | | |
| 授業形態 | 講義、実技、鑑賞 | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | オリエンテーション | 中学の学習を振り返るとともに、美の芸術的因素を理解し表現する。 美術の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、用法を身に付け、表現する。 | 「鉛筆で美しいグラデーションを表現しよう」 | 3 | デッサンの内容を踏まえ、美の芸術的因素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。 |
| | 5 | デッサン、クロッキー | | 「手を描こう」 | 3 | 鉛筆の明暗を美しく表現し、グラデーションの用法を身に付け、表現することが出来たか。 |
| | 6 | ピカソのデッサン | | 「小物を描こう」 | 4 | |
| | 7 | | | 「友達を描こう」 | 4 | |
| 2 | 8 | 色の仕組みの学習 | 色の仕組みについて理解し、その色の特性を生かして作品に取り組む。 有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。 | 「自分の好きな色を研究しよう」 | 1 | 色に関する様々な特性を理解するとともに、加色・減色を身に付け、表現することが出来たか。 |
| | 9 | | | 「明度・彩度・色相を描こう」 | 4 | |
| | 10 | | | 「ゴッホを描こう」 | 4 | |
| | 11 | 模写① | | | 4 | 水彩技法を身に付け、表現することが出来たか。 |
| 12 | | | | | | |
| 3 | 1 | 模写② | 学習した水彩技法を生かし、意図に応じた個性的な表現の工夫をする。 | | 2 | |
| | 2 | | | 「フェルメールを描こう」 | 3 | 有名画家の特徴を活かし、自らの意図に基づいた表現が出来たか。 |
| | 3 | | | | 3 | |

| | | | | | |
|-----------------------|---|---|---|--|------|
| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 書道I | 単位数 | 1単位 |
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース | 履修形態 | 選択必修 |
| 科目の目標 | 書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。 | | | | |
| 学習内容の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書…中学校書写の内容、また高校での古典臨書を生かし、感興や意図に応じた題材(書く言葉)の設定や創造的な作品制作を行う。 漢字の書…中国及び日本の名筆(古典作品)の臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。 篆刻(立体作品)…印の歴史と文化も学び、今後制作する作品に用いるための姓名印を彫る。 <p>古典や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</p> | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 意欲・関心・態度 | 芸術的な感受や表現の工夫 | 創造的な表現の技能 | 鑑賞の能力 | |
| | 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 | 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 | 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。 | 日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。 | |
| 教科書、教材など | 書I(教育図書) 鳥取城北高校選定筆、固形墨、半紙 | | | | |
| 授業形態 | 講義、実技、鑑賞 | | | | |

| 年間授業計画 | | | | | |
|--------|----|-------------------------|---------------------------------------|--|----|
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 |
| 1 | 4 | オリエンテーション 漢字仮名交じりの書① | 書写の学習を振り返るとともに、書の芸術的要素を理解し表現する。 | 「高校生活の抱負を書こう」 | 3 |
| | 5 | 漢字の書の学習① 【楷書の古典に学ぶ】 | 書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、用筆法を身に付け、表現する。 | 【古典臨書】 ①孔子廟堂碑 ②九成宮醴泉銘 ③雁塔聖教序 【創作】 古典を基にした1字創作 | 3 |
| | 6 | | | | 4 |
| | 7 | | | | 4 |
| 2 | 8 | 篆刻の学習 | 篆刻の歴史を理解し、立体作品に興味を持って取り組む。 | 「姓名印を彫ろう」 | 1 |
| | 9 | | | | 4 |
| | 10 | 漢字の書の学習② 【行書の古典に学ぶ】 | 書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、用筆法を身に付け、表現する。 | 【古典臨書】 ①蘭亭序 ②風信帖 【創作】 古典を基にした多字創作 | 4 |
| | 11 | | | | 4 |
| 3 | 12 | 漢字の書の学習③ 【草書の古典に学ぶ】 | | 【古典臨書】 ①書譜 | 4 |
| | 1 | 暮らしの中の書 | 冠婚葬祭に関する細字の知識と体裁よく書く技術を身に付ける。 | 実用細字を学ぶ (慶弔) | 2 |
| | 2 | 漢字仮名交じりの書② | 学習した古典を生かし、感興や意図に応じた個性的な表現の工夫をする。 | 「今伝えたい言葉」を書こう | 3 |
| | 3 | | | | 3 |

| 教科名 | 外国語 | 科目名 | コミュニケーション英語 I | 単位数 | 3 単位 | |
|-----------------------|---|--|---|---|------|--|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース(探究) | 履修形態 | 必修 | |
| 科目的目標 | | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 | | | | |
| 学習内容の概要 | | <p>1) 情報や考えなどの受け手や送り手になるように具体的な使用場面を設定して、次のようなコミュニケーション活動を行う。</p> <p>ア 英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解し、概要や要点をとらえる。</p> <p>イ 英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解し、概要や要点をとらえる。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考え・意見を表現し、書く。</p> <p>2) 上記のコミュニケーション活動を行う上で、以下の事項を踏まえる。</p> <p>ア リズムやインтонаctionなど英語の音声的な特徴に注意しながら、発音する。</p> <p>イ コミュニケーション活動に必要となる基本的な文型や文法事項などを理解する。</p> <p>ウ まとまりのある文章を音読し、英語の文章の流れに慣れる。</p> <p>エ ジェスチャーなどの非言語的手段の役割を理解する。</p> | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | A:コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | B:外国語表現の能力 | C:外国語理解の能力 | D:言語や文化についての知識・理解 | | |
| | コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション活動を図ろうとする。 | 外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。 | 外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを適切に理解している。 | 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。 | | |
| 教科書、教材など | Revised COMET English Communication I (数研出版) | | | | | |
| 授業形態 | 学級単位による授業 | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | •Get Ready!①~④ L.1 Why Do You Study English? | ・本課に入る前の、中学校における基礎の確認をする。 ・「英語を勉強する理由」についての生徒の意見を読み、英語を学ぶ必要性について考える。 | ・be動詞・一般動詞・否定文・疑問文 ・現在形・過去形 | 9 | A:活動を通して、自分のことやクラスメートのことを積極的に話そうとしたり、聞こうとしたりしている。 B: be動詞・一般動詞・否定文・疑問文について理解したうえで、正しい文を書くことができる。 C:本文に出てくる生徒たちが挙げている「英語を学ぶ理由」について理解できる。 D: be動詞・一般動詞・否定文・疑問文、現在形・過去形について理解している。 |
| | 5 | L.2 Washoku: Our Traditional Food | ・和食に関する本文を読み、和食が世界から評価されていることや、和食の主な特徴を理解する。 | 助動詞 (can/may/must) | 9 | A: 和食を通じて食に関心を持ち、和食の好き嫌いや好きな食べ物について、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 B: 「人を誘う表現」として、Why don't we ~? を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 C:本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:助動詞(can/may/must)の基本的な用法を理解している。 |
| | 6 | Lesson 3 What Should I Do? | ・男子生徒の悩み相談に関する本文を読み、悩みの内容を理解する。 | ・進行形(be動詞+動詞の～ing形) | 12 | A:ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。 B:本文の内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 C:本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:進行形(be動詞+動詞の～ing形)の用法を理解している。 |

| | | | | | | |
|----|--|---|---|---------------------|--|---|
| | 7 | Lesson 4 My School, Your School | ・ニュージーランドとペルーの学校に関する本文を読み、日本の学校との違いについて理解する。 | ・不定詞(to+動詞の原形) | 12 | A: 日本の学校と海外の学校の違いに关心を持ち、自分たちの学校生活について積極的に発言しようしたり、聞こうしたりしている。 B:本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C:本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:不定詞(to+動詞の原形)の名詞用法/形容詞用法/副詞用法を理解している。 |
| 2 | 8 | Lesson 5 Peace, the Polar Bear | ・日本初の人工哺育に成功したシロクマ、ピースに関する本文を読み、ピースを育てた飼育員高市さんの挑戦や苦労について理解する。 | ・動名詞(動詞+～ing) | 3 | A:ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。 B:本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C:本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:動名詞(動詞+～ing)の基本的な用法を理解している。It is ~ to....の構文について理解している。 |
| | 9 | Reading 1 Let's Try Riddles! | ・英語のなぞなぞを読んで、問題の意味を理解し、正解する。 | ・It is ~ to.... の構文 | 12 | |
| 10 | Lesson 6 Flying Wheelchairs | ・「空飛ぶ車いす」というボランティア活動に関する本文を読み、その活動内容について理解する。 | 現在完了形(have[has]+過去分詞) | 12 | A:「空飛ぶ車いす」の活動について関心を持ち、ボランティア活動について積極的に発言しようしたり、聞こうしたりしている。 B: 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C: 本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:現在完了形(have[has]+過去分詞)の基本的な用法(継続/経験/完了)を理解している。 | |
| 11 | Lesson 7 Moving As One | ・鳥や魚の群れに関する本文を読み、その行動のルールについて理解する。 | ・受け身(be動詞+過去分詞) | 12 | A: ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。 B:本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C:本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:受け身(be動詞+過去分詞)の基本的な用法を理解している。 | |
| 12 | Lesson 8 Convenience Stores: the Keys to Their Success | ・コンビニエンスストアに関する本文を読み、その成功の鍵について理解する。 | ・分詞(現在分詞/過去分詞) | 12 | A:コンビニエンスストアの工夫について関心を持ち、普段の買い物について積極的に発言しようしたり、聞こうしたりしている。 B:本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C:本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:分詞(現在分詞/過去分詞)の基本的な用法を理解している。 | |

| | | | | | | |
|---|---|---|--|--|---|---|
| 3 | 1 | Lesson 9 Malala Yousafzai: Education Can Change the World | ・マララ・ユスフザイさんに関する本文を読み、彼女の身に起ったことや、彼女の考えについて理解する。 | ・比較表現 | 6 | A: マララさんの行動・主張や学校教育の意義について関心を持ち、積極的に発言しようしたり、聞こうしたりしている。 B: 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C: 本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D: 比較表現の基本的な用法を理解している。 |
| 2 | 2 | Lesson 10 Ando Momofuku: the Father of Instant Noodles | 安藤百福氏に関する本文を読み、彼がカップ麺を開発した経緯について理解する。 | ・関係代名詞(who/which/that) | 9 | A: ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。 B: 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C: 本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D: 関係代名詞(who/which/that)の基本的な用法を理解している。 |
| 3 | 3 | Reading 2 Hachiko | ・情景や登場人物の心情を読み取りながら、物語文を読み味わう。 | ・分詞構文 ・仮定法過去(I wish ~.) ・関係副詞(where) | 9 | A: わからない単語や表現があつても、推測するなどして読み続けようとしている。 B: 本文の内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C: 物語の展開やあらすじが理解できる。 D: 分詞構文・仮定法過去(I wish ~.)・関係副詞(where)の基本的な用法を理解している。 |

- ** -

| 教科名 | 外国語 | 科目名 | 英語会話 | 単位数 | 2 単位 | |
|-----------------------|---|--|--|--|------|--|
| 対象学年 | 第 1 学年 | 対象コース | 研志コース(探究) | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | The objective of this subject is to exercise the students English listening & speaking skills. | | | | | |
| 学習内容の概要 | The students will be introduced 12 topic/theme based lessons. Each lesson will introduce a different set of target vocabulary & grammar which the students will use in listening, speaking, writing & reading exercises in class. | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | A: Vocabulary/Grammar | B: Listening skills | C: Speaking skills | D: Presentation skills | | |
| | Vocabulary and grammar will be assessed when writing presentation scripts. | Listening comprehension will be assessed during presentations & listening tests. | Pronunciation, intonation, rhythm & fluency will be assessed during presentations. | Presentation skills to enhance oral presentations will be assessed during presentations. | | |
| 教科書、教材など | Atlantis English Conversation | | | | | |
| 授業形態 | Students will work in small groups | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | Lesson 1 - I like meeting new people | Expressing your likes (to+infinitive, Gerunds) | All lessons will encompass the following; | 6 | All lessons require students to make an oral presentation which will be assessed on a number of criteria |
| | 5 | Lesson 2 - I usually wake up at 7 | Daily routines (frequencies adverbs) | 1. Looking up the meaning of the target vocab | 6 | |
| | 6 | Lesson 3 - We're taking a trip | Making a plan (future tense) | 2. Understanding and practising the target grammar points | 8 | |
| | 7 | Lesson 4 - How about going to ... | Making a simple proposal | 3. Use the vocab & grammar to write a monologue/dialogue script | 8 | |
| | 8 | Lesson 5 - You should take your ... | Giving someone general advice | 4. Use the script to practise speaking skills | 2 | |
| | 9 | Lesson 6 - We are not allowed to ... | Talking about cans & cannots | | 8 | |
| | 10 | Lesson 7 - How was your vacation | "how/was/were/did" questions | | 8 | |
| | 11 | Lesson 8 - I used to live in America | Understanding & using "How long ..." questions | | 8 | |

| | | | | | |
|---|----|---|--|---|--|
| | | | | | |
| | 12 | Lesson 9 – What were you doing on ... | Questioning in past progressive tense | 8 | |
| 3 | 1 | Lesson 10 – Who is the funniest person .. | Describing using different types of adjectives | 4 | |
| | 2 | Lesson 11 – How long have you ... | Questioning in perfect present tense | 6 | |
| | 3 | Lesson 12 – I wish I were rich | Stating a wish or belief | 6 | |

| 教科名 | 家庭 | 科目名 | 家庭基礎 | 単位数 | 2単位 | |
|-----------------------|--|--------------------------------|---|--|---|---|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース探究クラス | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | 少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、自立して生活する能力と異なる世代とかかわり、共に生きる力を育てることを重視している。人の一生を見通し、衣食住生活についての科学的な理解を深めるとともに、授業以外の生活設計の学習を通して、生涯にわたってこれらの能力を活用して課題を解決できるようにする。 | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 関心・意欲・態度 | | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 | |
| | 家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。 | | 家庭や地域の生活について課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。 | 家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。 | 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。 | |
| 教科書、教材など | 教科書：図説 家庭基礎（実教出版）副教材：2020生活学Navi（実教出版）新図説家庭基礎学習ノート（実況出版） 講義について：学級単位による授業 実験実習について：グループによる展開 | | | | | |
| 授業形態 | 講義・演習（学級単位による授業） | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学 期 | 月 | 單元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 5 6 7 | オリエンテーション 第一編 人とかかわって生きる | 人の一生を生涯発達の視点で捉え、青年期の生き方を考えさせるとともに家族・家庭の意義や家族・過程と社会とのかかわりについて理解させ、男女が協力して家庭を築くことの重要性について認識させる。 子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉などについて理解させるとともに、さまざまな人々に対する理解を深め、生涯を通して共に支え合って生きることの重要性や家族及び地域や社会の果たす役割について認識させる。 | 授業の進め方について 第1章 自分らしい生き方と家族 第2章 子どもとかかわる 第3章 高齢者とかかわる 第4章 社会とかかわる | 6 6 8 8 | 人の一生と家族・家庭について理解させる。 (関心・意欲・態度) ・現在の自分の生活の課題を発見しようとし、将来に向けて、その課題解決のために、意欲的に取り組もうとしている。 (思考・判断・表現) ・自分自身の生活を見つめ、自立へむけて課題を発見し、将来の発達課題ともかかわらせ自身の将来について思考、判断することができる。 (技能) ・自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートを通して、現在の自分の生活における課題をまとめることができる。 (知識・理解) 保育と高齢者福祉について理解させる。 |

(関心・意欲・態度)
・子どもの世界について、自分の子どもの頃を思い起こしながら、興味・関心を持ち、子どもの生活について、積極的にかかわりながら、理解しようとする。
・子どもを取り巻く状況について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。
・高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について自分の身近な課題としてとらえ、積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。
・生涯を通しての社会福祉・社会保障のしくみや地域での支え合いのしくみについて、自分のこととして考え、意欲的に理解しようとしている。

(思考・判断)
・子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。
・高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。
・社会福祉や生涯を通しての社会保障制度のしくみについて、現在の生活課題と関連させながら考えることができる。

(技能・表現)
・子どもの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。
・高齢社会の現状や課題について情報収集、調査・研究をし、課題解決に向けて考えをまとめることができる。
・支え合う社会とは何かを主体的に考え、社会福祉についての考えをまとめることができる。また、社会に置いて自分のできることは何かを導き出すことができ、それを支えあいの活動などの実践にいかすことができる。

(知識・理解)
・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。
・高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴について理解している。
・社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解できる。

| | | | | | | |
|----|--------------------|---------------|---|----------------|------------------|--|
| 2 | 8 9 10 11 | 第二編 生活をつくる | 栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解させ、食生活の分野に关心を持たせるとともに、必要な知識と技術を習得して安全と環境に配慮し、主体的に食生活を営むことができるようとする。 | 第1章 食生活をつくる | 2 8 8 8 | 栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得させる。 (関心・意欲・態度) ・食生活の自立にむけて、今の自分の食生活について、課題を発見し、その課題解決にむけでの知識や技術を積極的に身につけようとしている。 (思考・判断・表現) ・栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりにむけでの判断ができる。 (技能) ・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識をいかながら、献立を作成することができる。 (知識・理解) ・自分自身の食生活の課題や食事の意義・役割、食生活をとりまく環境などについて理解できる。 |
| 12 | | | 被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、目的に応じて着装を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができるようとする。 | 第2章 衣生活をつくる | 8 | 衣生活と家族の健康を理解させる。 (関心・意欲・態度) ・自分自身の衣生活の状況について関心を持ち、課題を発見し衣生活の改善・向上に積極的に取り組もうとする。 (思考・判断・表現) ・衣服材料・衣服管理・整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 (技能) ・材料の選択、日常の被服管理の方法を習得するとともに、日常着の修繕など、管理に必要な縫製技術を身につけている。 (知識・理解) ・住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係などについて理解している。 |
| | | | 住居の機能、住居と地域社会とのかかわりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、安全で環境に配慮した住生活を営むことができるようとする。 | 第3章 住生活をつくる | | 住生活と家族の健康を理解させる。 (関心・意欲・態度) ・住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、快適な住まいづくりや安全な住まいづくりに意欲的に取り組もうとする。 (思考・判断・表現) ・ライフステージと住空間の設計の関係、住環境について考えを深めることができる。 (技能) ・住まいの役割・機能について、地域の特徴などを踏まえて調査・研究ができる。 (知識・理解) ・住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係などについて理解している。 |

| | | | | | | |
|---|-------------|-----------------------|--|------------------------------------|-------------|--|
| 3 | 1 2 3 | 第三編 消費者として自立 する | 生活における経済の計画、消費者問題や消費者の権利と責任などについて理解させ、現代の消費生活の課題について認識させるとともに、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任を持って行動できるようする。生活における経済の計画、消費者問題や消費者の権利と責任などについて理解させ、現代の消費生活の課題について認識させるとともに、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任を持って行動できるようする。 | 第1章 消費行動を考える 第2章 経済的に自立する | 4 6 6 | <p>消費生活と環境を理解させる。 消費生活と環境を理解させる。(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近い将来の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようし、短期・長期の経済計画について意欲的に取り組もうとしている。 ・自分の将来設計を職業選択、人とのかかわり、絏済設計などを通して意欲的に考えようとしている。 (思考・判断・表現) ・現在の絏済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えを持ち、判断できる。 ・自分の生活設計について、生活資源の要素を考えながら、考えをまとめることができること。 ・経済的自立に向けて、短期・長期の絏済計画にかかる実習を通して、人生設計を組み立てることができる。 ・短期的・中期的・長期的な生活設計をすることができる。 (知識・理解) ・家庭絏済・国民絏済などの仕組みについて理解でき、短期・長期的絏済計画の重要性を認識できる。 ・生活設計の必要性、意義について理解できる。 (関心・意欲・態度) ・近い将来の絏済的自立を考えながら、家庭絏済・国民絏済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようし、短期・長期の絏済計画について意欲的に取り組もうとしている。 ・自分の将来設計を職業選択、人とのかかわり、絏済設計などを通して意欲的に考えようとしている。 (思考・判断・表現) ・現在の絏済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えを持ち、判断できる。 ・自分の生活設計について、生活資源の要素を考えながら、考えをまとめることができます。 (技能) ・絏済的自立に向けて、短期・長期の絏済計画にかかる実習を通して、人生設計を組み立てることができます。 ・短期的・中期的・長期的な生活設計をすることができます。 (知識・理解) ・家庭絏済・国民絏済などの仕組みについて理解でき、短期・長期的絏済計画の重要性を認識できる。 ・生活設計の必要性、意義について理解できる。 |
|---|-------------|-----------------------|--|------------------------------------|-------------|--|

| 教科名 | 情報 | 科目名 | 社会と情報 | 単位数 | 2単位 | |
|-----------------------|---|---|--|---|-----|---|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 全コース | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用する態度を育てる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | <p>(1)目的に応じた解決手順の工夫、コンピュータや情報通信ネットワークや情報通信ネットワークなどの適切な活用、伝達内容に適した提示方法の工夫などの実習を行う。</p> <p>(2)情報通信ネットワークやデータベースなどの活用を通して、必要とする情報を効率的に検索・収集する方法を習得するとともに情報発信に当たっての個人の責任、プライバシーや著作権への配慮など情報社会で必要とされる心構えについて理解する。</p> <p>(3)情報機器の仕組みと特性を理解し、情報化の進展が生活に及ぼす影響を身のまわりの事例などを通して認識し、情報を制圧に役立て主体的に活用しようとする心構えについて考える。</p> | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | A.関心・意欲・態度 | B.思考・判断 | C.技能・表現 | D.知識・理解 | | |
| | 情報や情報社会に关心を持ち、身のまわりの問題を解決するために進んで情報及び情報技術を活用し、情報社会に主体的に対応しようとする。 | 情報活用の方法を工夫したり、改善したりするとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断をする。 | 情報の収集・選択・処理を適切に行うとともに、情報を目的に応じて表現する。 | 情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、現代社会における情報の意義や役割を理解している。 | | |
| 教科書、教材など | 社会と情報(東京書籍) | | | | | |
| 授業形態 | 講義・演習(学級単位による授業) | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | 1章 | オリエンテーション | 「社会と情報」の学習目標と、シラバスについて知る。 | 6 | メディアの意味と特徴について理解している。 情報の信憑性や信憑性について理解している。 メディアの特性を理解し、情報を適切に判断している。 |
| | 5 | | 1.わたしたちを取り巻く情報 ①情報とメディア ②信頼できる情報とは ③メディアリテラシー | メディアの意味と特徴を学ぶ。 情報の信憑性について理解する。 情報を批判的にとらえることを知る。 | 6 | 文字、画像、動画像、音のデジタル化の仕組みを理解している。 |
| | 6 | | 2.アナログからデジタルへ ①情報のデジタル表現 | 文字、画像、動画像、音のデジタル化の仕組みを理解する。 | 8 | デジタル化の利点と問題点を理解している。 |
| | 7 | | ②デジタルだからできること 写真加工に挑戦しよう | デジタルデータの利点と情報の統合について理解する。 画像処理ソフトウェアを用いて画像を加工する。 | 8 | 画像処理ソフトウェアを活用することができる。 |
| | | | 3.情報の表現と伝達 ①情報が伝わる仕組み | プレゼンテーションソフトウェアでスライドショーを作成する。 情報の表現と伝達について理解する。 | | スライドを効果的に作成することができる。 情報伝達の仕組みについて理解している。 |

| | | | | | | |
|----|---|----|---|--|---|---|
| | | | ②伝達のための表現と手段 ③プレゼンテーション | 情報伝達のためのメディアの選択やカラーバリアフリーについて理解する。 プレゼンテーションの意味やその発表・評価方法について理解する。 | | 情報伝達のためのメディアの選択について理解している。 プレゼンテーションの意味と方法を理解している。 |
| 8 | | | 画像ムービーを作ろう | ビデオ編集ソフトウェアで見せたい順に写真を配置する。 | 2 | 自分の意図した画像ムービーを作成することができる。 |
| 2 | 9 | 2章 | 1.インターネットの利用 ①インターネットの仕組み ②WWWと電子メール ③情報の検索 ④情報収集の注意点 2.ネットワークとコミュニケーション ①メディアの発達 ②誰でも表現者の時代 ③コミュニケーションの特徴 ④情報発信と注意点 | IPアドレスやパケット通信について理解する。 WWWや電子メールの仕組みについて理解する。 検索エンジンの仕組みとその検索方法について理解する。 情報収集を行う際の注意点について整理する。 メディアの発達について学ぶ。 ソーシャルメディアや、表現活動、情報発信について学ぶ。 コミュニケーションの特徴とその活用法について学ぶ。 情報発信の方法とその工夫・注意点について理解する。 | 8 | IPアドレスやパケット通信について理解している。 WWWや電子メールの仕組みについて理解している。 検索エンジンの仕組みとその検索方法について理解している。 情報収集を行う際の注意点について理解している。 メディアの発達について理解している。 ソーシャルメディアや、表現活動、情報発信について理解している。 コミュニケーションの特徴を理解している。 情報発信の方法とその工夫・注意点について理解している。 |
| 10 | | 3章 | 1.情報化の影響と課題 ①情報社会の影 ②情報モラル ③セキュリティ 2.法律と個人の責任 ①情報社会と著作権 ②個人情報の保護 | 情報社会のさまざまな問題について理解する。 情報モラルについて理解し、それを積極的に活用していくことを考える。 情報セキュリティについて理解する。 著作権について理解する。 個人情報について理解し、その保護や活用について理解する。 | 8 | 情報社会のさまざまな問題について理解している。 情報モラルについて理解している。 情報モラルを意識した対応をしようとしている。 情報セキュリティについて理解している。 著作権について理解している。 個人情報の保護について理解している。 |
| 11 | | | 情報を検索しよう レポートを作成しよう | 検索エンジンの使い分けについて整理する。 案内状を作成する。 レポートを作成する。 | 8 | 情報検索を効果的に行うことができる。 情報検索を積極的に工夫しようとしている。 文書処理ソフトウェアの特性を理解している。 |
| 12 | | | 自分をPRしよう | 構成用紙にアイデアを書く。 構成用紙をスライドにする。 自己PRを発表する。 | 8 | 案内状を作成することができる。 自己PRの内容を積極的に表現しようとしている。 自己PRの内容を効果的にスライドに表現している。 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 |

| 教科名 | 国語 | 科目名 | 国語総合 | 単位数 | 4 単位 | |
|-----------------------|---|--|---|--|---|---------------------------------------|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース(大学進学) | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 国語を適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高め、思考力を伸ばし心情を豊かにする。また、言語感覚を磨き、言語文学に対する関心や理解を深めるとともに、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章を論理的に理解し、思考する力を養う。 ・優れた文学作品に触れ、感受性・情緒性豊かな想像力や思いやりの心を育む。 ・表現力・コミュニケーション力・想像力を高め、社会性・国際性を育み、課題解決能力を培う。 ・古典に親しみ、自国の文化についての理解を深める。 ・生涯にわたり、読書に親しむ習慣を身につける。 | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 関心・意欲・態度 | 話す・聞く能力 | 書く能力 | 読む能力 | 知識・理解 | |
| | 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重して向上を図ろうとする。 | 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合つたりして、自分の考えをまとめて、深めている。 | 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 | 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 | 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。 | |
| 教科書、教材など | 教科書:『精選国語総合改訂版』(三省堂) 補助教材:『精選国語総合学習課題ノート』(三省堂)『重要古文単語315』(桐原書店) 『常用国語便覧』(浜島書店)『体系古典文法』(数研出版)『新明説漢文』(尚文出版) 『改訂版漢字ことば常用漢字ワイドアルファ漢字検定7級~2級』(桐原書店) | | | | | |
| 授業形態 | 講義・演習(学級単位による授業) | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | |
| 1 | 4 | 【現代文編】《随想》 ○ぐわぜん、うたがら ○「待つ」ということ 【古文編】《古文入門》 ○児のそら寝 ○檢非違使忠明 | <ul style="list-style-type: none"> ・随想の基本的な読み方を習得する。 ・二項対立的な内容を把握しながら、全体の構成を的確に捉える。 ・繰り返し音読して古文のリズムに慣れる。 ・歴史的仮名遣いや古語と現代語の違いを理解する。 | 筆者のものの見方や感じ方を理解するとともに、自己を見つめ、自立することの意味を考える。 古文を読む意義を理解して、古文や古文に描かれた世界に 관심を持つ。 | 12 | 読む能力、知識・理解で評価 関心・意欲・態度、読む能力で評価 |
| | 5 | 【現代文編】《小説I》 ○羅生門 ○ゴール 【漢文編】《漢文入門》 ○漢文の構造と訓読 ○成句・格言を読む | <ul style="list-style-type: none"> ・小説を読む基本的な方法を習得する。 ・登場人物の心理や行動の意味を表現に即して的確に読み取る。 ・漢文の基本構造を理解する。 ・訓点を理解して正しく音読する。 ・書き下し文のルールを理解する。 | 小説の構造・展開・主題の把握など、読解の基本的方法を学び内容を理解し、人間の心理に対する考えを深める。 漢文とは何か理解し、独特の口調に慣れ、訓点・書き下し文・基本構造・再読文字・助字・置き字について理解する。 | 12 | 読む能力、知識・理解で評価 関心・意欲・態度、読む能力で評価 |

| | | | | | |
|----|---|--|---|----|--|
| | | | | | |
| 6 | <p>【現代文編】《評論Ⅰ》 ○水の東西 ○言語は色眼鏡である</p> <p>【古文編】《物語》 ○竹取物語 ○伊勢物語</p> <p>【漢文編】《故事成語》 ○推敲・漁夫之利・蛇足</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・評論の基本的な読み方を習得する。 ・具体例を丁寧に読み取りながら論理の展開を把握し、筆者の主張を的確に捉える。 ・作り物語、歌物語を読み平安時代の物語文学に親しみ、当時の社会や人々の有様や心情を捉える。 ・登場人物の置かれている状況や考え方、心情の変化、場面の推移を理解し、自分の考えを持つ。 | <p>論理性に着眼し評論を読み解く方法を学び筆者の考えをまとめ、比較文化論、言語、自分の生き方にについて考える。</p> <p>物語の内容を理解し、当時の社会や人々のありさまや心情をとらえるとともに、助動詞・助詞について理解する。</p> <p>音読を繰り返して訓読に慣れ、語句や句形を理解し、示唆に富む内容を読み味わう。</p> | 16 | <p>読む能力、知識・理解で評価</p> <p>関心・意欲・態度、読む能力で評価</p> <p>関心・意欲・態度、読む能力で評価</p> |
| 7 | <p>【現代文編】《詩》 ○旅上・サークス・I was born・崖</p> <p>【古文編】《隨筆》 ○徒然草</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し音読して詩に親しみ、個性豊かなものの見方や感じ方を味わい、言葉が持つ魅力を発見する。 ・和文体、和漢混交文体、説話体の文体の違いを理解し、優れた表現を味わう。 | <p>詩の世界や表現に親しみ、それぞれの作品の中で言葉が独特な力を有していることを理解して、自分の言語力やものの見方を深める。</p> <p>隨筆の内容を理解して、筆者のものの見方をまとめるとともに、助動詞・助詞について理解する。</p> | 16 | <p>読む能力、知識・理解で評価</p> <p>関心・意欲・態度、読む能力で評価</p> |
| 8 | 【漢文編】《漢詩》 | <ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の規則を理解する。 ・主要な詩人について、文学的知識を持つ。 | <p>漢詩の簡潔な表現に込められた内容や情感を理解して鑑賞するとともに、近体詩の表現形式について理解する。</p> | 4 | <p>関心・意欲・態度、読む能力で評価</p> |
| 9 | <p>【現代文編】《小説Ⅱ》 ○清兵衛と瓢箪 ○青が消える</p> <p>【古文編】《和歌》 ○万葉集 ○古今和歌集 ○新古今和歌集</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み、場面の推移や人物の心理の変化を理解する。 ・和歌の調べの美しさを味わう。 ・和歌の優れた表現に親しむ。 | <p>登場人物の人間性を把握し、作品の主題について考察し、言語表現に注目した鑑賞に取り組む。</p> <p>知的な「古今和歌集」と幽艶な「新古今和歌集」の歌の内容を理解し、技法について理解する。</p> | 16 | <p>読む能力、知識・理解で評価</p> <p>関心・意欲・態度、読む能力で評価</p> |
| 10 | <p>【漢文編】《史話》 ○鷄口牛後 ○先從隗始</p> <p>【現代文編】《評論Ⅱ》 ○情報と身体 ○コインは円形か</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・史伝に描かれた古代中国の人々の生き方について考察する。 ・「情報通信技術」の発達がこれからの社会にどのような意味をもつかを考える。 ・「論語」に込められた意味を丁寧に読み取る。 ・二人の思想が現代においてどのような意義を持つか考察する。 | <p>人間や人間関係を生き生きと描いた史伝の魅力を押さえ、繰り返し音読して長文の漢文に慣れる。</p> <p>文章の構成や論の展開に注意しながら、現代の科学や美のあり方について自分の考えを深める。</p> <p>孔子と孟子のものの見方や考え方を学んで理解し、自分の考えを深める。</p> | 16 | <p>関心・意欲・態度、読む能力で評価</p> <p>読む能力、知識・理解で評価</p> |
| 11 | 【漢文編】《思想》 ○論語・孟子 | | | 16 | 関心・意欲・態度、読む能力で評価 |

| | | | | |
|----|--|---|---|------------------------|
| | 【古文編】《日記》 ○土佐日記 | ・日記を読んで、人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 | 日記に描かれた平安時代の旅の様子や登場する人々の心情を理解し、助動詞・助詞について理解する。 | 関心・意欲・態度、読む能力で評価 |
| | 【現代文編】《短歌と俳句》 ○短歌十六首 ○俳句十六句 | ・短歌、俳句の基本的読み方を習得する。 ・短詩形文学固有の表現特質を理解する。 | 短詩型作品を読み味わって、その魅力を理解し、自分の感性や観念の拡充・深化を図る。 | 関心・意欲・態度、話す・聞く能力で評価 |
| 12 | 【現代文編】《小説III》 ○なめどこ山の熊 ○空缶 | ・文体の特色や象徴的な表現の効果について考え、小説の鑑賞力を高める。 | 登場人物の心の動きに注意して、まとまった分量の小説を読み味わい、主題や特徴のある表現を捉える。 | 16 読む能力、知識・理解で評価 |
| 1 | 【現代文編】《評論III》 ○なぜ私たちは労働するのか ○命は誰のものなのか ○創造力のゆくえ | ・抽象度の高い文章においても論理の展開に着目して、筆者の主張を的確に捉える。 ・労働、命について自分の考えを深める。 | 社会・自然科学系を扱った文章を読み、主張を踏まえたうえで「社会と自分との関係性」「多様性」などの現代的テーマについて自分の意見を持つ。 | 8 読む能力、知識・理解で評価 |
| 2 | 【漢文編】《文章》 ○雑説 | ・名文と呼ばれる文章を読み、作者のものの見方や考え方を理解する。 | 論説文としての論理の展開と巧みな比喩表現を把握して内容を理解し、作者の力強い主張を理解する。 | 12 関心・意欲・態度、読む能力で評価 |
| 2 | 【古文編】《軍記》 ○平家物語 | ・「平家物語」に特徴的な音便形に注意して生き生きと音読みし、語り物としての魅力を味わう。 | 音読みを通じて軍記物語のリズムを捉え、内容を理解して平安末期の動乱を押さえるとともに、敬語について理解する。 | 12 関心・意欲・態度、読む能力で評価 |
| 3 | 【漢文編】《小説》 ○復活 | ・文章に即して内容・テーマを読み取り、現代の物語への書き換えなどを通して作者の意図をより深く理解する。 | 文章に即して内容・テーマを読みとり、作者の意図を把握する。 | 12 関心・意欲・態度、読む能力で評価 |
| 3 | 【古文編】《紀行》 ○奥の細道 | ・人生を旅と見る芭蕉の人生観に触れ、ものの見方感じ方を深める。 | 紀行文に描かれた旅の情景や作者の心情を読み味わうとともに、俳諧の世界を理解し、各句の背景を踏まえて鑑賞する。 | 12 関心・意欲・態度、読む能力で評価 |
| | 【現代文編】《表現》 ○表現1～10 | ・適切な題材を選び、自分の考えが明確になるように、構成を工夫して書く。 ・これまで学んだ様々な表現技法を生かし、目的に応じ適切に選択したり、効果的に組合したりして総合的に表現する。 | 自分の考えが明確になるように、文章全体の構成を工夫して書く。 目的に応じて様々な表現技法を活用しつつ、グループで話し合って企画・立案し、発表し合う。 | 関心・意欲・態度、書く能力で評価 |

| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学I | 単位数 | 4 単位 |
|-----------------------|--|--|---|--|---|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース(大学進学) | 履修形態 | 必修 |
| 科目の目標 | 【数学I】数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにとともに、それらを活用する態度を育てる。 【数学II】いろいろな式、図形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。 | | | | |
| 学習内容の概要 | 〈数と式〉数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようになる。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようになる。(2次関数)2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようになる。 〈図形と計量〉三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考え方の有用性を認識するとともに、それを事象の考察に活用できるようになる。(データの分析)統計の基本的な考え方を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようになる。〈式と証明〉整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようになるとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようになる。(複素数と方程式) 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようになる。 | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | A: 数学への関心・意欲・態度 数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 | B: 数学的な見方や考え方 数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付けている。 | C: 数学的な表現・処理 数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けていている。 | D: 数量・図形などについての知識・理解 数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 | |
| 教科書、教材など | 改訂版 高等学校 数学I (数研出版) チャート式 解法と演習 数学I+A(数研出版)、プリント | | | | |
| 授業形態 | 講義・演習 | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 |
| 1 | 4 | 第1章 数と式 | 2次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりする。 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をする。 | 第1節 式の計算 1 整式の加法と減法 2 整式の乗法 3 因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 発展/2重根号 | 12 |
| | 5 | | | | |
| | | | | | 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めたり1次不等式を事象の考察に活用したりする。 |

| | | | | |
|----|---------------|---|--|----|
| | 第2章 集合と命題 | 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用する。 | 第4節 集合と命題 9 集合 10 命題と条件 11 命題とその逆・対偶・裏 12 命題と証明 | |
| 6 | 第3章 2次関数 | 事象から2次関数で表される関係を見出す。また、2次関数のグラフの特徴について理解する。 2次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりする。 | 第1節 2次関数とグラフ 1 2次関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定 | 16 |
| 7 | | 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を2次不等式で表し2次関数のグラフを利用してその解を求める。 | 第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 | 16 |
| 8 | | | 7 2次不等式 | 4 |
| 9 | 第3章 図形と計量 | 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める。 | 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 | 16 |
| 10 | | 正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。 | 第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 | 16 |
| 11 | 第4章 データの分析 | 四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明する。 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて2つのデータの相関を把握し説明する。 | 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関 | 16 |

| | | | | |
|----|----------------|--|---|----|
| | 第1章 式と証明 | 3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をする。整式の除法や分数式の四則計算について理解し、簡単な場合について計算をする。 | 第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 | |
| 12 | | 等式や不等式が成り立つことを、それらの基本的な性質や実数の性質などを用いて証明する。 | 第2節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明 | 16 |
| 1 | 第2章 複素数と方程式 | 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をする。二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解する。 | 第1節 複素数と2次方程式の解 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係 | 8 |
| 2 | | 因数定理について理解し、簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求める。 | 第2節 高次方程式 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式 | 12 |
| 3 | 演習および予備 | | | 12 |

| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学A | 単位数 | 2 単位 | |
|-----------------------|---|--|--|---|------------------|---|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース(大学進学) | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | <p>《場合の数と確率》 数え上げの原則や順列・組合せについて理解し、事象を数学的に考察できるようにする。また、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、確率を活用する能力を伸ばす。</p> <p>《図形の性質》 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。</p> <p>《整数の性質》 いろいろな数を表す仕組みを学び、あわせてそれがどのように利用されているかを学ぶ。</p> | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | A: 数学への関心・意欲・態度 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 | B: 数学的な見方や考え方 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付けている。 | C: 数学的な表現・処理 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | D: 数量・図形などについての知識・理解 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 | | |
| 教科書、教材など | 教科書:改訂版 高等学校 数学A(数研出版) 補助教材:チャート式 解法と演習 数学 I+A(数研出版) | | | | | |
| 授業形態 | 講義・グループ学習・演習(学級単位による授業) | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ 研究 重複を許して取る組合せ 第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率 研究 原因の確率 | 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数え上げの原則として、和の法則と積の法則を確実に理解する。 ・順列・組合せの数について学び、それを具体的な場面に活用できるようにする。試行や事象の考えを明確にして、確率の基本的な法則をまとめ、余事象などについて理解する。 ・独立な試行とその繰り返しについて、身近な事例をもとにして、確率の計算について理解を深める。 ・条件のつき確率について、具体例を通して、その意味を理解し、いろいろな条件つき確率を求めることができるようとする。 | 6 6 8 8 | 有限集合の要素の個数について、共通部分がある場合とない場合に分けて学び、具体的な事象の考察ができる。 和の法則・積の法則、順列、円順列、重複順列について学び、もれなく重なりなく要領よく数える方法が身につく。また組合せや同じものを含む順列について学び、論理的に考えることができる。 試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を知り、不確定な事象を数量的にとらえることができる。和事象・積事象・排反事象・余事象・確率の基本性質、確率の加法定理について、集合と関連づけ、事象を数学的に考察し処理することができる。独立な試行、反復試行を通して、具体的な事象を数学的に考察し処理することができる。重心・外心・内心について理解を深めるとともに、直観力・洞察力を養い、論理的に考察できる。 |
| | 8 | 第2章 図形の性質 第1節 平面图形 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心、内心、重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理 研究 三角形の辺と角 4. 円に内接する四角形 | 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かに図形の性質を論理的に考察し処理できるようとする。 | 辺の長さと角の大きさとの関係、内角・外角の2分線と辺の比などを学ぶことにより、図形に対する直観力・洞察力を養う。 | 2 8 | 三角形の辺と角の大小関係、内分と外分、三角形の角の二等分線、円周角、円周角の定理の逆、内接する四角形などについて理解する。 |

| | | | | | |
|---|----|---|--|---|---|
| | | | | | |
| 2 | 10 | 5.円と直線 研究 方べきの定理の逆 6.2つの円 7.作図 第2節 空間図形 8.直線と平面 | ・円周角の定理とその逆、円に内接する四角形の性質及び四角形が円に内接するための条件、円の接線と接点を通る弦とのなす角の性質、方べきの定理及び2つの円の位置関係について学ぶ。 ・平面と直線の位置関係、平面と直線とのなす角や三垂線の定理などを学ぶ。正多面体が5つしかないことが知られていたが、オイラーの定理を用いてその理由を学ぶ。 | 8 | 円と接線、接線と弦のつくる角、方べきの定理、2つの円について学び、活用できる。 |
| | 11 | 研究 三垂線の定理 | | 8 | B.空間における直線と平面が垂直になるための条件を、正四面体に当てはめて考察できる。空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。オイラーの多面体定理を利用すると、正多面体の面の形から面の数が限定されることに関心をもつ。正多面体どうしの関係を利用して、正多面体の体積を求めることができる。正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。 |
| | 12 | 9.空間図形と多面体 研究 多面体の体積・種類 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1.約数と倍数 2.最大公約数・最小公倍数 | 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。 | 8 | 素因数分解から約数の個数や最大公約数・最小公倍数を求めることができる。ある数の倍数を文字式で表現し、整数の性質を調べ、結果を解釈できる。 |
| 3 | 1 | 研究 最大公約数・最小公倍数の性質 3.整数の割り算と商・余り 研究 自然数の積と素因数の個数 研究 和、差、積の余り 第2節 ユークリッドの互除法 4.ユークリッドの互除法 5.1次不定方程式 | すべての整数は必ず素数の積に分解されて、その表し方はただ1つであることを理解する。また、整数を割った余りで分類する考えは、倍数の考えをさらに発展させることを理解する。 ・素因数分解しにくい大きな素因数をもつ2つの整数の最大公約数を求める最良の方法を学ぶ。さらに、ユークリッドの互除法は多くの利用価値があることを理解する。また、ユークリッドの互除法を用いて、 a 、 b が互いに素であるときの特殊解の求め方を学ぶ。 | 4 | ユークリッドの互除法は整数の除法の性質に基づいているという仕組みを理解し活用する。ユークリッドの互除法を活用し $ax+by=1$ の形の二元一次方程式の特殊解を求める。数を表す仕組みを理解する。 |
| | 2 | 第3節 整数の性質の活用 6.分数と小数 7.n進法 課題学習 | いろいろな数を表す仕組みを学び、あわせてそれがどのように利用されているかを学ぶ。記数法や小数(有限小数や無限小数)の性質を学ぶ。さらに、10進法をはじめ、コンピュータの原理である2進法などを学ぶ。 | 6 | n 進法での表示や数の計算ができるようにする。 |
| | 3 | | | | |

| 教科名 | 公民 | 科目名 | 現代社会 | 単位数 | 2 単位 |
|-----------------------|--|---|---|---|-------------|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志(大学進学) | 履修形態 | 必修 |
| 科目の目標 | 人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 | | | | |
| 学習内容の概要 | <p>(1) 現代社会における諸課題の中で、社会の在り方生き方を考察する基盤として、幸福・正義・公正などについて理解し、現代社会に対する関心を高めて、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚する。</p> <p>(2) 現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解するとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察する。</p> | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | a. 関心・意欲・態度 現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄に関心を高め、意欲的に追究しているか。社会的事象を総合的に考察しようとする態度を身につけているか。平和で民主的なよりよい社会に実現に向けて参加、協力する態度を身につけているか。 | b. 思考・判断・表現 現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄から課題を見出し、広い視野から多面的、多角的に考察しているか。課題について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。課題についての考察や判断の過程や結果を様々な方法で適切に表現しているか。 | c. 資料活用の技能 現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。 | d. 知識・理解 現代社会の政治、経済、社会、国際関係、人間としての在り方生き方にかかわる基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身につけているか。また、学び方を身につけているか。 | |
| 教科書、教材など | <p>教科書:現代社会(東京書籍)</p> <p>資料集:最新現代社会資料集2020(第一学習社)、教科書準拠ワーク</p> | | | | |
| 授業形態 | 講義形式 | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 時間 |
| 1 | 4 | 《第1編》 私たちの生きる社会 | 四つのテーマについて、身近な生活とも関連付けて理解し、それぞれの課題について、幸福、正義、公正の観点から考察する。 | 環境と私たちの生活 資源・エネルギー問題 と私たちの生活 科学技術の発達と 私たちの生命 高度情報社会と 私たちの生活 | 6 6 8 |
| | 5 | 《第2編》 現代社会と人間として のあり方生き方 第1章 青年期と自己の形 | 自己と社会はどのようにかかわりを持っているか。また青年としてどのように生きるべきかを考える。 | 青年期の意義 | |
| | 6 | 第2章 個人の尊重と 法の支配 | | 社会契約説 世界の政治体制 | |

| | | | | | | |
|---|-------------|---|---|---|-------------|---|
| | 7 8 9 | 第3章 現代の民主政治と 政治参加の意義 | 日本国憲法における三大原理を確認し、民主社会の実現に向けた取り組みについて理解する。 国民主権の原理に基づく議会制民主主義の方法や権力分立のあり方について理解する。 | 民主社会の原理 と日本国憲法 日本の政治機構 と政治参加 | 8 2 8 | a. 平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身につけているか。 b. 課題についての考察や判断の課程や結果を様々な方法で適切に表現しているか。 c. 現代社会の政治にかかる基本的な問題に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。 d. 現代社会の政治にかかる基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身につけているか。 |
| | 10 11 | 第4章 国際政治の動向と 日本の役割 | 世界の政治体制を理解するとともに国際社会における日本の立場を理解する。 | 国際連合 国際社会 地域紛争・領土問題 | 8 8 | a. 現代社会の経済・国際関係にかかる事柄に关心を高め、意欲的に追究している b. 現代社会の経済・国際関係にかかる事柄から課題を見いだし、広い視野から多面的、多角的に考察している c. 得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。 d. 現代社会の経済・国際関係にかかる基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身につけているか。 |
| 3 | 12 | 第5章 現代の経済社会と 私たちの生活 | 個人や企業がどのような目的で経済活動を行っているのかを理解し、経済活動に対してどのような責任があるのかを考察する。 | 市場経済のしくみ 豊かな社会の実現をめざして | 8 | a. 現代社会の経済・国際関係にかかる事柄に关心を高め、意欲的に追究している b. 現代社会の経済・国際関係にかかる事柄から課題を見いだし、広い視野から多面的、多角的に考察している c. 得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。 d. 現代社会の経済・国際関係にかかる基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身につけているか。 |
| 3 | 1 2 | 第6章 国際経済の動向と 日本の役割 第7章 民主社会に生きる倫理 | 国際経済、国際政治の基本を理解し、日本が国際社会において果たすべき役割を考察する。 先人たちの考え方を学び、自らの価値観の幅を広げることを目指す。 | 国際経済の動向 国際収支と為替相場 進む地域経済統合 宗教 西洋思想 平和の追求 | 4 6 | a. 社会的事象を総合的に考察しようとする態度を身につけているか。 b. 人間にかかる事柄から課題を見いだし、広い視野から多面的、多角的に考察しているか。 c. 得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。 d. 人間としての在り方生き方にかかる基本的な課題や事柄について理解しているか。 |
| 3 | 3 | 《第3編》 ともに生きる社会をめざして | 現代社会の課題を、持続可能な社会の形成に参画するという観点から探求する。 | 社会保障 環境保護 人口問題 | 6 | a. 社会的事象を総合的に考察しようとする態度を身につけているか。 b. 課題について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。 c. 課題に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し効果的に活用することができるか。 d. 現代社会にかかる基本的な課題について理解し、その知識を身につけているか。また、学び方を身につけているか。 |

| 教科名 | 理科 | 科目名 | 科学と人間生活 | 単位数 | 2 単位 |
|----------|--|--|---|---|--------|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース(大学進学クラス) | 履修形態 | 必修 |
| 科目の目標 | 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 | | | | |
| 学習内容の概要 | 1 生命の科学 | 2 物質の科学 | 3 光や熱の科学 | 4 宇宙や地球の科学 | 5 課題研究 |
| 科目の評価基準 | A : 関心・意欲・態度 | B : 思考・判断 | C : 技能・表現 | D : 知識・理解 | |
| | 自然の事物・現象に関心を持ち、科学の発展と人間生活の関係を調査・探求し、科学的な見方・考え方を身につけている。 | 自然の事物や現象に問題を見出し、実験を行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察することにより、総合的に判断することができる。 | 自然現象に関する調査・実験・観察の技能を習得するとともに、それらの過程や結果、そこから導き出された考え方を的確に表現することができる。 | 自然現象に関して、人間が長い時間をかけて獲得した知識の有用性を理解する。そして知識を獲得する方法についても理解し、適切に利用することができる。 | |
| 教科書、教材など | 教科書:改訂 科学と人間生活 (東京書籍) | | | | |
| 授業形態 | 講義形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験および問題演習を行う。 | | | | |

年間授業計画

| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
|-----|---|--|--|-----------------------------------|----|---|
| 1学期 | 4 | 科学技術の発展 | 現代の文明が科学技術によって支えられ、発展してきたことを理解する。 | | 6 | 科学の発展の歴史に興味・関心を持ち、人間生活と科学技術の関わりを主体的に学ぶことができる。 A |
| | 5 | 1編 生命の科学 (どちらかの章を選択) 1章 生物と光 | 植物は、光合成・光屈性・花芽形成など様々な面で光と関わっていることを理解する。また、光が関わる動物の行動や、ヒトの眼の構造と働きについて学習する。 | ・植物の生育と光 ・光シグナルと生物 ・ヒトの視覚と光 | 6 | 生物と光の関わりについて理解し、人間生活との結びつきを興味・関心を持ち学ぶことができる。 A D 実験から眼球構造について実感を伴った理解をする。 B 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 C |
| | 6 | 2章 微生物とその利用 | 微生物の存在や生態系における役割を学び、微生物が身近なものであることを知る。また、発酵食品や医薬品など様々な場で微生物が利用されていることを学習する。 | ・さまざまな微生物 ・微生物と人間のかかわり | 6 | 微生物について理解し、人間生活と結び付きを興味・関心を持ち学ぶことができる。 A D 実験から微生物の特徴について実感を伴った理解をする。 B 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 C |
| | 6 | 2編 物質の科学 (どちらかの章を選択) 1章 材料とその再利用 | 金属・プラスチックの特性と用途について学び、人間生活のあらゆる場で利用されていることを理解する。また、プラスチックの原料である石油資源は限りがあり、その有効利用が必要であることを学習する。 | ・金属 ・プラスチック ・資源の再利用 | 8 | 金属・プラスチックの性質について理解し、日常生活でどのように利用されているか興味・関心を持ち学ぶことができる。 A D 実験から金属の性質について実感を伴った理解をする。 B 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 C |
| | 7 | 2章 衣料と食品 | 衣料材料の性質や用途について学び、繊維の性質や用途の違いがどのように人間生活で利用されているか学習する。また、身近な食品中の成分について学び、食品成分と安全について学習する。 | ・衣料 ・食品 | 8 | 衣料材料、食品成分について理解し、日常生活でどのように利用されているか興味・関心を持ち学ぶことができる。 A D 実験から食品の成分について実感を伴った理解をする。 B 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 C |

| | | | | | | | | | | | |
|-------------|----|--|---|---|---|---|--|--|--|--|--|
| 2 学 期 | 8 | 3編 光や熱の科学 (どちらかの章を選択) 1章 光の性質とその利用 | スペクトルや屈折・反射など、光が持つ物理的性質を学ぶ。また、電磁波の波長の違いがどのように人間生活で利用されているかを理解する。 | ・目に見える光の世界 ・光の進み方と基本的性質 ・見えない光とその応用 | 2 | 光が持つ物理的性質や電磁波の波長の違いについて理解し、人間生活でどのように利用されているか興味・関心を持ち学ぶことができる。 | A D B C | | | | |
| | | 2章 熱の性質とその利用 | 熱と温度の区別を理解し、熱の性質を学習する。さらにエネルギーが変換すること、保存することを理解し、日常で適切に用いることが出来るようになる。また、それらの性質を利用して科学技術が発展したことを理解する。 | ・熱とは何か ・熱と人間生活 | | 実験から光の性質について実感を伴った理解をする。 | | | | | |
| | | | | | | 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 | | | | | |
| | | | | | | 熱の性質を理解し、日常生活の中でどのように利用されているかに興味・関心を持ち学ぶことができる。 | | | | | |
| | 11 | 4編 宇宙や地球の科学 (どちらかの章を選択) 1章 身近な天体と太陽系における地球 | | | | 実験から熱の性質について実感を伴った理解をする。 | B C | | | | |
| | | | | | | 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 | | | | | |
| | | | | | | 熱の性質を理解し、日常生活の中でどのように利用されているかに興味・関心を持ち学ぶことができる。 | | | | | |
| | | | | | | 実験から熱の性質について実感を伴った理解をする。 | | | | | |
| | 12 | 2章 身近な自然景観と自然災害 | 身近な自然景観が太陽の生み出すエネルギーをもとに作り出されてきたことを学習する。地震や火山のメカニズムを理解し、自然災害と人間生活の関わりを理解する。 | ・天体が刻む「時」 ・太陽系の構造 ・太陽が動かす大気と水 身のまわりの景観の成り立ち 自然災害と人間 | 8 | 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 | A D B C A D B C A D B C | | | | |
| | | | | | | 熱の性質を理解し、日常生活の中でどのように利用されているかに興味・関心を持ち学ぶことができる。 | | | | | |
| | | | | | | 実験から熱の性質について実感を伴った理解をする。 | | | | | |
| | | | | | | 学んだ知識をまとめ、表現することができる。 | | | | | |
| 3 学 期 | 1 | 5編 課題研究 | 科学と人間生活の間に現在生まれている新しい課題に関心を持ち、研究を行い、研究を通して今後の科学研究や人間生活のあり方について考えることができる。 | ・下水処理と活性汚泥の研究 ・クモの糸の性質について ・風力発電に関する調査 ・身のまわりの灾害と防災 | 4 | 科学と人間生活について学んだ知識をもとに、日常生活から課題を発見し探求できる。また、探求した内容をまとめ、工夫して表現できる。 | A B C D | | | | |
| | 2 | | | | 6 | | | | | | |
| | 3 | | | | 6 | | | | | | |

| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 体育 | 単位数 | 2単位 |
|-----------------------|---|-------|--|---|--|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース | 履修形態 | 必修 |
| 科目の目標 | ○各種の基本動作を習得し、基礎体力の向上をはかる。 ○安全と事故防止に注意し、互いに協力し合って練習・競技・ゲームができるようとする。 ○自分の健康・体力に関心を持ち、進んで運動する習慣を養い、生涯にわたって運動に親しむ基礎をつくる。 | | | | |
| 学習内容の概要 | 体づくり運動、体ほぐし、体力を高める運動、各種目における基本技能の習得、各種目のルール等の知識習得、生徒の自主性によるゲーム運営と安全への意識の向上。 | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 関心・意欲・態度 | | 思考・判断 | 運動技能 | 知識・理解 |
| | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、自ら進んで計画的に運動しようとする。 | | 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。 | 自己の能力と各種運動の特性に応じた技能を高め、体力向上のための合理的な行い方を身につけている。 | 運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけている。 |
| 教科書、教材など | 特になし | | | | |
| 授業形態 | 実技(男女別合併授業) | | | | |

年間授業計画

| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
|----|----|--------------------|--|----------------------------|----|----------------------------|
| 1 | 4 | オリエンテーション | 年間計画を十分に理解し、授業に積極的に参加できるようにする。 | 授業の内容、方法、評価などについて説明する。 | 6 | 授業中の行動の観察 |
| | 5 | 体育理論 | スポーツの歴史、現代スポーツの特徴。 | スポーツの歴史、技術、ドーピングについて学習。 | 6 | 授業中の行動の観察 評価テスト(総時数6時間) |
| | 5 | 体づくり運動 | 体づくり運動の特性を理解し、体をほぐしたり体力を高めたりする。 | 城北体操の習得。 | 6 | 授業中の行動の観察 実技テスト |
| | 6 | 新体力テスト | 自己の体力と運動能力を把握する。 | 正しい測定を行い、自己の能力診断をする。 | 8 | 診断テスト結果 |
| | 6 | 陸上競技 | 自己の能力に応じて運動技能を高め、競技したり記録を高める。 | 各種目の基本技能の習得。 | 8 | 授業中の行動の観察 実技テスト |
| | 7 | バレー・ボーラー ソフトボール | 自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 | 基本動作を習得し、協力してゲームができるようにする。 | 8 | 授業中の行動の観察 実技テスト |
| | 8 | | | | 2 | |
| | 9 | | | | 8 | |
| | 10 | | | | 8 | |
| | 11 | | | | 8 | |
| | 12 | サッカー バスケットボール | 自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 | 基本動作を習得し、協力してゲームができるようにする。 | 8 | 授業中の行動の観察 実技テスト |

| | | | | | | |
|---|---|--------|--|-----------------------------------|---|---|
| 3 | 1 | バドミントン | 自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 | 基本動作を習得し、ペアで協力してゲームができるようにする。 | 4 | 授業中の行動の観察 実技テスト |
| | 2 | ダンス | 感情をこめて踊ったり、仲間と楽しく踊ったりし、発表できるようにする。 | ダンスの特性を理解し、基本動作やリズム感、協調性を養うようとする。 | 6 | 授業中の行動の観察 作品の評価 ※ 年間を通しての出席状況 |
| | 3 | | | | 6 | |

| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 保健 | 単位数 | 1単位 | |
|-----------------------|--|--|--|--|-----|---|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | <p>①現代社会と健康 わが国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること、および環境を改善していく努力が必要であることを理解できるようにする。</p> | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 | | |
| | 健康に対する関心を持ち、健康を保持増進させるためには何が必要かを考え、実行できる態度が身についている。また、日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考える意欲をもつ。 | 健康についての思考を深め、その日常での活用方法を適切に判断し、健康行動の適切な選択ができる。 | 保健の授業を通して、必要な基本的技能を習得し、実際の場面で適切な行動がとれるようになる。 | 保健に関する基礎的な知識や、ヘルスプロモーションの理念を理解できる。また、保健に関するさまざまな分野における知識を身につけ、その役割について理解できる。 | | |
| 教科書、教材など | 教科書:最新保健体育(大修館書店)、最新保健ノート(大修館書店) | | | | | |
| 授業形態 | 教室での一斉授業、グループ学習、ビデオ学習 | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | 単元1現代社会と健康 ①健康の考え方と 成り立ち | 健康とは何かについての考え方を理解する。 | WHOの健康の理念 | 3 | |
| | 5 | ②私たちの健康の すがた | 健康水準や生活習慣病について理解する。 | 健康寿命と平均寿命の違い | 3 | |
| | 6 | ③健康に関する意 志決定・行動選択と 環境づくり | 適切な意志決定・行動選択とヘルスプロモーションについて理解する。 | ヘルスプロモーションの理 念 | 4 | |
| | 6 | ④生活習慣病の予 防 | 生活習慣病を予防するための調和の取れた生活の実践ができるようにする。 | 生活習慣病を防ぐためのラ イフスタイル | 4 | |
| | 7 | ⑤食事と健康 | 健康に過ごすための食事や運動、休養について理解を深める。 | 自らの食生活の現状把握と、バランスの取れた食事の必要性 | 4 | 定期考査 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する |
| | 7 | ⑥運動・休養と健康 | 健康に過ごすための食事や運動、休養について理解を深める。休養について理解を深める。 | 具体的な日常生活の振り返りと、適切な休養の必要性 | 1 | |
| | 8 | ⑦喫煙と健康 | 喫煙に関する理解を深め、適切な意志決定や行動選択ができるようにする。 | たばこの有害物質から引き起こされる様々な疾病 | 1 | |

| | | | | | |
|----|---|--|--|---|---|
| | | | | | |
| 9 | ⑧飲酒と健康 | 飲酒に関する理解を深め、適切な意志決定や行動選択ができるようにする。 | 未成年者の飲酒 アルコール摂取による心身への影響 | 4 | |
| 10 | ⑨薬物乱用と健康 ⑩感染症とその予防 ⑪性感染症・エイズとその予防 | 薬物乱用に関する理解を深める エイズを含めた感染症の予防に正しい知識が必要なことを理解する。 | 薬物依存と薬物乱用者が引きおこす社会問題 感染症予防対策についての理解(図1の活用) エイズの正しい知識と、共に生活できる社会づくりについて | 4 | |
| 11 | ⑫欲求と適応機制 ⑬心身の相関とストレス | 欲求や適応機制には様々な種類があることを理解する。 精神と身体の密接な関連を理解する。 | 欲求不満に対する対処法(図3の活用) ストレスへの対処と心身相関 | 4 | |
| 12 | ⑭心の健康のために ⑮交通事故の現状と要因 | ストレスに関する理解と自己実現を図るために何をすればよいかを理解する。 交通事故の要因を知り、交通事故を防止するために車両の特性や、安全な運転、自他の命を尊重する態度および交通環境の整備などが重要であることを理解する。 | 自己実現についての理解 わが国の交通事故の特徴について(図1・2の活用) 教科書の事例をもとにした交通事故の3つの要因 | 4 | 定期考査 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する |
| 3 | ⑯交通事故を防ぐために | 交通事故の責任や補償問題を知り、加害事故を起こさないような努力が必要であることを理解する。 | 刑事上、民事上、行政上の責任について 法的整備、交通環境の整備、車両の安全性 | 2 | |
| | ⑰応急手当の意義とその基本 ⑱日常的な応急手当 | 怪我や熱中症に対する応急手当の適切な手順、方法を理解する。応急手当の意義、知識を理解する。 怪我や熱中症に対する応急手当の適切な手順、方法を理解する。 | 傷病者を発見した時に確認、観察するポイントを理解する AED(自動体外式除細動器) 怪我や熱中症に対する適切な処置 | 3 | 定期考査 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する |
| | ⑲心肺蘇生法の原理とおこない方 | 心肺蘇生法の正しい手順や方法について理解を深めるとともに、その重要性を理解する。 | <グループ学習> 適切な手順の確認 ダミー人形を使った心肺蘇生法の実習 | 3 | |

| | | | | | |
|-----------------------|--|--|--|--------------------------------------|------|
| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 音楽I | 単位数 | 1単位 |
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース | 履修形態 | 選択必修 |
| 科目の目標 | ・音楽に対する興味・関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。 ・音楽的感性・技能を身に付け、音楽の生み出す曲想やリズムなどの美しさを感じ取りながら表現する能力を養う。 | | | | |
| 学習内容の概要 | ・音楽理論の基礎～音楽を学習する上での最も基礎的な音楽上の決り事について学習する。 ・実技～アルトリコーダーを使用し、独奏曲や二重奏曲をグループ学習で学ぶ。 ・鑑賞～バロック時代からの作曲家の紹介と、その作品を鑑賞する。 また、音楽に関わりの深い映画を鑑賞する。 | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 意欲・関心・態度 音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的に、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。 | 芸術的な感受や表現の工夫 感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り創造的な音楽活動の工夫をする。 | 創造的な表現の技能 自己のイメージをもち創造的な表現をするための技能を身に付けている。 | 鑑賞の能力 多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。 | |
| 教科書、教材など | MOUSA1(教育芸術社) アルトリコーダー | | | | |
| 授業形態 | 講義、実技、鑑賞 | | | | |

年間授業計画

| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
|----|----|-----------------------|--------------------------------------|---|-----------------------|---|
| 1 | 4 | オリエンテーション 音楽理論の基礎① | 音楽理論の基礎を身につける。 | 五線 音符と休符 音名 基礎練習 (音階・タンギング) 二重奏 「主は冷たい土の中に」 | 3 3 4 4 | 基礎的な音楽理論が理解できた |
| | 5 | アルトリコーダー実技 | ハ長調の運指を覚える。 タンギングを使えるようにする。 | 「サウンドオブミュージック」 | 3 | 正確な運指とタンギングで演奏することができたか。 |
| | 6 | | ミュージカル映画の中の音楽を味わう。 | | 4 | ミュージカル映画の中の音楽を味わうことができたか。 |
| | 7 | 鑑賞 | | | 4 | |
| 2 | 8 | 音楽理論の基礎② | 音楽理論の基礎を身につける。 | 音階と調号 音程と和音 拍子 音の強弱に関する記号 速度記号 二重奏「もののけ姫」 二重奏「エーデルワイス」 「陽のあたる教室」 | 1 4 4 4 4 | 基礎的な音楽理論が理解できた |
| | 9 | アルトリコーダー実技 鑑賞 | レガート奏法を身につける。 | | 4 | 正確な運指とレガートで演奏することができたか。 |
| | 10 | | 映画と映画中の音楽を味わう。 | | 4 | 映画の中の音楽を味わうことができたか。 |
| | 11 | | | | 4 | |
| | 12 | | | | 4 | |
| 3 | 1 | アルトリコーダー実技 鑑賞 | B♭の運指を覚える。 バロック時代～古典派の作曲家の作品を味わう。 | 二重奏「ビリーブ」 バッハ ヘンデル モーツアルト ベートーベン | 2 3 3 | 正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。 作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。 |
| | 2 | | | 3 | | |
| | 3 | | | 3 | | |

| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 美術I | 単位数 | 1単位 | | |
|-----------------------|---|------------------------|---|--|---|--|--|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース | 履修形態 | 選択必修 | | |
| 科目の目標 | 美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、描写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、美術の伝統と文化についての理解を深める。 | | | | | | |
| 学習内容の概要 | <ul style="list-style-type: none"> クロッキー・デッサン…手や身の回りの物、人物のクロッキー・デッサン制作を行う。 色彩構成…色彩についての学習を通じ様々な表現法を身に付け、創作活動に生かす。 有名画家の模写…有名画家の模写政策において、その歴史と文化も学び、今後制作する作品に用いる。 名画や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。 | | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | <p>意欲・関心・態度 美の創造的活動の喜びを味わい、美の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p> | | <p>芸術的な感受や表現の工夫 名画のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。</p> | <p>創造的な表現の技能 創造的な色彩表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。</p> | <p>鑑賞の能力 日常生活の美術の効用や美の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、美のよさや美しさを創造的に味わっている。</p> | | |
| 教科書、教材など | 高校生の美術I（日本文教出版） スケッチブック、デザインセット、水彩色鉛筆 | | | | | | |
| 授業形態 | 講義、実技、鑑賞 | | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 | |
| 1 | 4 | オリエンテーション | 中学の学習を振り返るとともに、美の芸術的要素を理解し表現する。 美術の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、用法を身に付け、表現する。 | 「鉛筆で美しいグラデーションを表現しよう」 | 3 | デッサンの内容を踏まえ、美の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。 鉛筆の明暗を美しく表現し、グラデーションの用法を身に付け、表現することが出来たか。 | |
| | 5 | デッサン、クロッキー ピカソのデッサン | | 「手を描こう」 | 3 | | |
| | 6 | | | 「小物を描こう」 | 4 | | |
| | 7 | | | 「友達を描こう」 | 4 | | |
| 2 | 8 | 色の仕組みの学習 | 色の仕組みについて理解し、その色の特性を生かして作品を取り組む。 有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。 | 「自分の好きな色を研究しよう」 | 1 | 色に関する様々な特性を理解するとともに、加色・減色を身に付け、表現することが出来たか。 水彩技法を身に付け、表現することが出来たか。 | |
| | 9 | 「明度・彩度・色相を描こう」 | | 4 | | | |
| | 10 | 「ゴッホを描こう」 | | 4 | | | |
| | 11 | 模写① | | 4 | | | |
| 3 | 12 | 4 | | | | | |
| | 1 | 模写② | 学習した水彩技法を生かし、意図に応じた個性的な表現の工夫をする。 | 「フェルメールを描こう」 | 2 | 有名画家の特徴を活かし、自らの意図に基づいた表現が出来たか。 | |
| | 2 | | | | 3 | | |
| | 3 | | | | 3 | | |

| 教科名 | 藝術 | 科目名 | 書道I | 単位数 | 1単位 | | |
|-----------------------|---|---|---|--|-------------|--|--|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース | 履修形態 | 選択必修 | | |
| 科目の目標 | 書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。 | | | | | | |
| 学習内容の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書…中学校書写の内容、また高校での古典臨書を生かし、感興や意図に応じた題材(書く言葉)の設定や創造的な作品制作を行う。 漢字の書…中国及び日本の名筆(古典作品)の臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。 篆刻(立体作品)…印の歴史と文化も学び、今後制作する作品に用いるための姓名印を彫る。 <p>古典や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</p> | | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 意欲・関心・態度 | 芸術的な感受や表現の工夫 | 創造的な表現の技能 | 鑑賞の能力 | | | |
| | 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 | 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 | 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。 | 日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。 | | | |
| 教科書、教材など | 書I(教育図書) 鳥取城北高校選定筆、固形墨、半紙 | | | | | | |
| 授業形態 | 講義、実技、鑑賞 | | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 | |
| 1 | 4 | オリエンテーション 漢字仮名交じりの書① | 書写の学習を振り返るとともに、書の芸術的要素を理解し表現する。 | 「高校生活の抱負を書こう」 | 3 | 書写の内容を踏まえ、書の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。 | |
| | 5 | 漢字の書の学習① 【楷書の古典に学ぶ】 | 書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、用筆法を身に付け、表現する。 | 【古典臨書】 ①孔子廟堂碑 ②九成宮醴泉銘 ③雁塔聖教序 【創作】 古典を基にした1字創作 | 3 4 4 | 古典に関わる様々な背景を理解するとともに、唐代の楷書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。 | |
| | 6 | 篆刻の学習 | 篆刻の歴史を理解し、立体作品に興味を持って取り組む。 | 「姓名印を彫ろう」 | 1 | 印に関わる歴史やその用途について理解を深めるとともに、技法を身に付け取り組むことができたか。 | |
| | 7 | | | | 4 | 古典に関わる様々な背景を理解するとともに、行草書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。 | |
| 2 | 8 | | | | 4 | 古典に関わる様々な背景を理解するとともに、行草書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。 | |
| | 9 | | | | 4 | 古典を基にした多字創作 | |
| | 10 | 漢字の書の学習② 【行書の古典に学ぶ】 | | 【古典臨書】 ①蘭亭序 ②風信帖 【創作】 古典を基にした多字創作 | 4 | 古典を基にした多字創作 | |
| | 11 | 4 | | 古典を基にした多字創作 | | | |
| 3 | 12 | 漢字の書の学習③ 【草書の古典に学ぶ】 | | 4 | 古典を基にした多字創作 | | |
| | 1 | 暮らしの中の書 | 冠婚葬祭に関する細字の知識と体裁よく書く技術を身に付ける。 | 実用細字を学ぶ (慶弔) | 2 | 実用書への理解を深めるとともに、実生活に応用できる技術を身につけたか。 | |
| | 2 | 漢字仮名交じりの書② | 学習した古典を生かし、感興や意図に応じた個性的な表現の工夫をする。 | 「今伝えたい言葉」を書こう | 3 | 古典の特徴を活かし、自らの意図に基づいた表現が出来たか。 | |
| | 3 | | | | 3 | | |

| | | | | | |
|-----------------------|---|--|---|--|------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | コミュニケーション英語 I | 単位数 | 3 単位 |
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース(大学進学) | 履修形態 | 必修 |
| 科目の目標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。 | | | | |
| 学習内容の概要 | 1)情報や考えなどの受け手や送り手になるように具体的な使用場面を設定して、次のようなコミュニケーション活動を行う。 ア 英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解し、概要や要点をとらえる。 イ 英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解し、概要や要点をとらえる。 ウ 聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考え方・意見を表現し、書く。 2)上記のコミュニケーション活動を行う上で、以下の事項を踏まえる。 ア リズムやイントネーションなど英語の音声的な特徴に注意しながら、発音する。 イ コミュニケーション活動に必要となる基本的な文型や文法事項などを理解する。 ウ まとまりのある文章を音読し、英語の文章の流れに慣れる。 エ ジェスチャーなどの非言語的手段の役割を理解する。 | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | A:コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション活動を図ろうとする。 | B:外国語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。 | C:外国語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを適切に理解している。 | D:言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。 | |

教科書、教材など Revised COMET English Communication I (数研出版)

授業形態 学級単位による授業

年間授業計画

| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
|----|---|---|---|------------------------------------|----|--|
| 1 | 4 | •Get Ready!①~④ L.1 Why Do You Study English? | ・本課に入る前の、中学校における基礎の確認をする。 ・「英語を勉強する理由」についての生徒の意見を読み、英語を学ぶ必要性について考える。 | ・be動詞・一般動詞・否定文・疑問文 ・現在形、過去形 | 9 | A:活動を通して、自分のことやクラスメートのことを積極的に話そうとしたり、聞こうとしたりしている。 a.英語を学ぶ必要性について関心を持ち、積極的に自分の意見を発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 B: be動詞・一般動詞・否定文・疑問文について理解したうえで、正しい文を書くことができる。 C:本文に出てくる生徒たちが挙げている「英語を学ぶ理由」について理解できる。 D: be動詞・一般動詞・否定文・疑問文、現在形・過去形について理解している。 |
| | 5 | L.2 Washoku: Our Traditional Food | ・和食に関する本文を読み、和食が世界から評価されていることや、和食の主な特徴を理解する。 | 助動詞 (can/may/must) | 9 | A: 和食を通じて食に関心を持ち、和食の好き嫌いや好きな食べ物について、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 B: 「人を誘う表現」として、Why don't we ~? を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 C:本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:助動詞(can/may/must)の基本的な用法を理解している。 |

| | | | | | | |
|----|----|---------------------------------|---|-----------------------|----|--|
| 1 | 6 | Lesson 3 What Should I Do? | ・男子生徒の悩み相談に関する本文を読み、悩みの内容を理解する。 | ・進行形(be動詞+動詞の～ing形) | 12 | A:ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。 B:本文の内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 C:本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:進行形(be動詞+動詞の～ing形)の用法を理解している。 |
| | 7 | Lesson 4 My School, Your School | ニュージーランドとペルーの学校に関する本文を読み、日本の学校との違いについて理解する。 | ・不定詞(to+動詞の原形) | 12 | A:日本の学校と海外の学校の違いに関心を持ち、自分たちの学校生活について積極的に発言しようしたり、聞こうしたりしている。 B:本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C:本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:不定詞(to+動詞の原形)の名詞用法/形容詞用法/副詞用法を理解している。 |
| 2 | 8 | Lesson 5 Peace, the Polar Bear | ・日本初の人工哺育に成功したシロクマ、ピースに関する本文を読み、ピースを育てた飼育員高市さんの挑戦や苦労について理解する。 | ・動名詞(動詞+～ing) | 3 | A:ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。 B:本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C:本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:動名詞(動詞+～ing)の基本的な用法を理解している。It is ~ to....の構文について理解している。 |
| | 9 | Reading 1 Let's Try Riddles! | ・英語のなぞなぞを読んで、問題の意味を理解し、正解する。 | ・It is ~ to.... の構文 | 12 | |
| 10 | 10 | Lesson 6 Flying Wheelchairs | ・「空飛ぶ車いす」というボランティア活動に関する本文を読み、その活動内容について理解する。 | 現在完了形(have[has]+過去分詞) | 12 | A:「空飛ぶ車いす」の活動について関心を持ち、ボランティア活動について積極的に発言しようしたり、聞こうしたりしている。 B:本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C:本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D:現在完了形(have[has]+過去分詞)の基本的な用法(継続/経験/完了)を理解している。 |

| | | | | | | |
|---|----|---|--|--|-----|--|
| | 11 | Lesson 7 Moving As One | ・鳥や魚の群れに関する本文を読み、その行動のルールについて理解する。 | ・受け身(be動詞+過去分詞) | 12 | A: ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。 B: 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C: 本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D: 受け身(be動詞+過去分詞)の基本的な用法を理解している。 |
| | 12 | Lesson 8 Convenience Stores: the Keys to Their Success | ・コンビニエンスストアに関する本文を読み、その成功の鍵について理解する。 | ・分詞(現在分詞/過去分詞) | 12 | A: コンビニエンスストアの工夫について関心を持ち、普段の買い物について積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 B: 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C: 本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D: 分詞(現在分詞/過去分詞)の基本的な用法を理解している。 |
| 3 | 1 | Lesson 9 Malala Yousafzai: Education Can Change the World | ・マララ・ユスフザイさんに関する本文を読み、彼女の身に起ったことや、彼女の考えについて理解する。 | ・比較表現 | 6 | A: マララさんの行動・主張や学校教育の意義について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 B: 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C: 本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D: 比較表現の基本的な用法を理解している。 |
| | 2 | Lesson 10 Ando Momofuku: the Father of Instant Noodles | 安藤百福氏に関する本文を読み、彼がカップ麺を開発した経緯について理解する。 | ・関係代名詞(who/which/that) | 9 | A: ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。 B: 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C: 本文中の代名詞が指す内容や注意すべき意味について理解できる。 D: 関係代名詞(who/which/that)の基本的な用法を理解している。 |
| | 3 | Reading 2 Hachiko | ・情景や登場人物の心情を読み取りながら、物語文を読み味わう。 | ・分詞構文 ・仮定法過去(I wish ~.) ・関係副詞(where) | 9 - | A: わからない単語や表現があつても、推測するなどして読み続けようとしている。 B: 本文の内容を簡潔にまとめて話すことができる。 C: 物語の展開やあらすじが理解できる。 D: 分詞構文・仮定法過去(I wish ~.)・関係副詞(where)の基本的な用法を理解している。 |

| 教科名 | 外国語 | 科目名 | 英語表現 I | | 単位数 | 2 単位 | | |
|-----------------------|--|---|--|---|---|---|--|--|
| 対象学年 | 第 1 学年 | 対象コース | 研志コース(大学進学) | 履修形態 | 必修 | | | |
| 科目の目標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 | | | | | | | |
| 学習内容の概要 | <p>ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。</p> <p>イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。</p> | | | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | <p>① コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <p>○ モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。</p> <p>○ 間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。</p> <p>○ 積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。</p> | | <p>② 表現の能力: 話すこと(S), 書くこと(W)</p> <p>○ 自分のことや与えられた課題について書くことができる。</p> <p>○ 自分のことや与えられた課題について話すことができる。</p> | <p>③ 理解の能力: 聞くこと(L), 読むこと(R)</p> <p>○ 発音に関する語句や英文を聞き、正しい解答を選べる。</p> <p>○ つなぎの言葉の使い方を理解している。</p> | <p>④ 言語や文化についての知識・理解</p> <p>○ いろんなトピックについて、内容を理解することができます。</p> <p>○ それぞれのページで学んだ文法を理解している。</p> <p>○ 学習した文法を理解し、知識として定着している。</p> | | | |
| 教科書、教材など | Vision Quest English Expression I Core (61 啓林館 英 I 330) | | | | | | | |
| 授業形態 | 講義・演習(学級単位による授業) | | | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 | | |
| 1 | 4 | Lesson 1 Do you like sports? スポーツは好き? | 初対面での自然な会話の流れを学び、自己紹介や他者紹介ができる。 | G 文の種類 F 相づちを打つ／聞き直す T 紹介 P イントネーション | 6 | A: ・モデル会話を関心を持ち、聞き、発話しようとしている。 ・間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 | | |
| | 5 | Lesson 2 I study Japanese through anime アニメで日本語を学んでいます。 | 興味や関心を表す表現を学び、自らの興味・関心を紹介し、感想やおすすめの作品を伝えられる。 | G 文型と動詞 F 言いかえる/話題を変える T 興味・関心 P リズム | 6 | B: S ・モデル会話を英語らしい発音で発話することができる。 ・例文を英語らしい発音で発話することができる。 ・自分のことや与えられた課題について話すことができる。 ・紹介するトピックを決め、発表できる。 | | |
| | 6 | Lesson 3 Will you go home this summer? この夏は国に帰るの? | 予定を尋ねたり伝えたリする会話を学び、旅行のプランを作って、ペアで発表できるようになる。 | G 自制 F 計画する/予定する T スポーツ P 母音① | 8 | | | |

| | | | | | |
|---|---|--|---|---|--|
| | Lesson 4 I've never played soccer before. サッカーはやったことないんだ。 | スポーツに関する表現を学び、スポーツ活動の経験を尋ねたり伝えたりできるようになる。 | G 完了形 F 原因・理由を述べる T スポーツ P 母音② | | B: W ・学んだ文法を使って、文章を書くことができる。 ・自分のことや与えられた課題について書くことができる。 ・紹介するトピックを決め、原稿を書くことができる。 ・つなぎの言葉を使って文章を書くことができる。 ・パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。 |
| 2 | 7 Lesson 5 The apple pie is delicious. アップルパイ、おいしいよ。 | レストランでの会話表現を学び、食事の注文ができるようになる。 | G 助動詞 F 許可を求める/依頼する T 食事 P 子音① | 8 | C: L ・モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選べる。 ・発音に関する語句や英文を聞き、正しい解答を選べる。 ・パートナーの言ったことを、正しく聞き取れる。 C: R ・つなぎの言葉の使い方を理解している。 ・パラグラフの構成を理解している。 ・文章の要点をつかむことができる。 |
| | 8 Lesson 6 I'm so glad I can see the Sydney Opera House. シドニー・オペラハウスが見られてすごくうれしい。 | 観光地や名所について説明を聞き、感想を表せる。観光地の案内ができるようになる。 | G 受動態 F 喜ぶ/驚く T 観光 P 子音② | 2 | D: ・いろんなトピックについて、内容を理解することができる。 ・それぞれのページで学んだ文法を理解している。 ・学習した文法を理解し、知識として定着している。 |
| | 9 Lesson 7 Thank you for your invitation today. 今日はご招待ありがとうございます。 | パーティで招待された時やプレゼントを渡す時、お礼をいう時の表現を学び、伝えられるようになる。 | G 不定詞 F 感謝する/謝罪する T 交際 P アクセント | 8 | |
| | 10 Lesson 8 How about going together this weekend? 今週末、一緒に行かない? | 娯楽への誘い方を学ぶ。趣味について話し合ったり、メールを書いたりできるようになる。 | G 動名詞 F 励誘する／申し出る T 娯楽 P カタカナ語 | 8 | |
| | 11 Lesson 9 I'm unhappy with our school uniforms. 私は学校の制服が気に入らない。 | 学校の制服について賛成・反対意見を述べ合い、自分の意見を言うことができるようになる。 | G 分詞 F 賛成する/反対する T ルール P 数字の発音 | 8 | |

| | | | | |
|---|---|--|---|---|
| | | | | |
| 3 | 12 Lesson 10 That's why it looks so nice! それであんなに立 派なんだ！ | 日米の冬の行事につ いて紹介し、文化の違 いについて話し合う会 話を学び、日本の文 化や行事の紹介がで きる。 | G 関係詞 F 説明する T 文化 P つながる音 | 8 |
| | 1 Lesson 11 I hear the population of Japan is falling quickly. 日本の人口は急速 に減っているって 聞いたよ。 | 読書の必要性につ いての会話を学ぶ。日本 の出生率の低下につ いて自分の意見を表 現できる。 | G 比較 F 意見を述べる/主 張する T 社会 P 変わる音 | 4 |
| | 2 | | | 6 |
| 3 | Lesson 12 I wish it were possible to get it back. 元に戻せたらいい んだけど。 | 悩み事についての会 話を学ぶ。悩んでいる人 への助言や提案がで きるようになる。 | G 假定法 F 助言する/提案する T 悩み事 P 聞こえなくなる音 | 6 |
| | 復習 | 要点・要約の書き方 G : Grammar F : Function T : Topic P : Pronunciation | | |

| 教科名 | 家庭 | 科目名 | 家庭基礎 | 単位数 | 2単位 | |
|-----------------------|--|---|---|--|------------------|---|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース大学進学クラス | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | 少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、自立して生活する能力と異なる世代とかかわり、共に生きる力を育てることを重視している。人の一生を見通し、衣食住生活についての科学的な理解を深めるとともに、授業以外の生活設計の学習を通して、生涯にわたってこれらの能力を活用して課題を解決できるようにする。 | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 | | |
| | 家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。 | 家庭や地域の生活について課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。 | 家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。 | 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。 | | |
| 教科書、教材など | 教科書：図説 家庭基礎（実教出版）副教材：2020生活学Navi（実教出版）新図説家庭基礎学習ノート（実教出版） 講義について：学級単位による授業 実験実習について：グループによる展開 | | | | | |
| 授業形態 | 講義・演習（学級単位による授業） | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 5 6 7 | オリエンテーション 第一編 人とかかわって生きる | 人の一生を生涯発達の視点で捉え、青年期の生き方を考えさせるとともに家族・家庭の意義や家族・過程と社会とのかかわりについて理解させ、男女が協力して家庭を築くことの重要性について認識させる。 子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉などについて理解させるとともに、さまざまな人々に対する理解を深め、生涯を通して共に支え合って生きることの重要性や家族及び地域や社会の果たす役割について認識させる。 | 授業の進め方について 第1章 自分らしい生き方と家族 第2章 子どもとかかわる 第3章 高齢者とかかわる 第4章 社会とかかわる | 6 6 8 8 | 人の一生と家族・家庭について理解させる。 (関心・意欲・態度) ・現在の自分の生活の課題を発見しようとし、将来に向けて、その課題解決のために、意欲的に取り組もうとしている。 (思考・判断・表現) ・自分自身の生活を見つめ、自立へむけて課題を発見し、将来の発達課題ともかかわらせ自身の将来について思考、判断することができる。 (技能) ・自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートを通して、現在の自分の生活における課題をまとめることができ (知識・理解) 保育と高齢者福祉について理解させる。 |

(関心・意欲・態度)
・子どもの世界について、自分の子どもの頃を思い起こしながら、興味・関心を持ち、子どもの生活について、積極的にかかわりながら、理解しようとする。
・子どもをとりまく状況について、現状を知り、その課題を見つけて、解決に向けて考えようとしている。
・高齢社会の現状、高齢者的心身の特徴や生活について自分の身近な課題としてとらえ、積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。
・生涯を通しての社会福祉・社会保障のしくみや地域での支え合いのしくみについて、自分のこととして考え、意欲的に理解しようとしている。

(思考・判断)

・子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。
・高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。
・社会福祉や生涯を通しての社会保障制度のしくみについて、現在の生活課題と関連させながら考えることができる。

(技能・表現)

・子どもとの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。
・高齢社会の現状や課題について情報収集、調査・研究をし、課題解決に向けて考えをまとめることができる。
・支え合う社会とは何かを主体的に考え、社会福祉についての考えをまとめることができる。また、社会に置いて自分のできることは何かを導き出すことができ、それを支えあいの活動などの実践にいかすことができる。

(知識・理解)

・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。
・高齢社会の現状や高齢者的心身の特徴について理解している。
・社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解できる。

| | | | | | | |
|----|--------------------|---------------|---|----------------|------------------|--|
| 2 | 8 9 10 11 | 第二編 生活をつくる | 栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解させ、食生活の分野に関心を持たせるとともに、必要な知識と技術を習得して安全と環境に配慮し、主体的に食生活を営むことができるようとする。 | 第1章 食生活をつくる | 8 8 8 8 | 栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得させる。 (関心・意欲・態度) ・食生活の自立にむけて、今の自分の食生活について、課題を発見し、その課題解決にむけでの知識や技術を積極的に身につけようとしている。 (思考・判断・表現) ・栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりにむけての判断ができる。 (技能) ・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識をいかながら、献立を作成することができる。 (知識・理解) ・自分自身の食生活の課題や食事の意義・役割、食生活をとりまく環境などについて理解できる。 |
| 12 | | | 被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、目的に応じて着装を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができるようとする。 | 第2章 衣生活をつくる | 8 | 衣生活と家族の健康を理解させる。 (関心・意欲・態度) ・自分自身の衣生活の状況について関心を持ち、課題を発見し衣生活の改善・向上に積極的に取り組もうとする。 (思考・判断・表現) ・衣服材料・衣服管理・整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 (技能) ・材料の選択、日常の被服管理の方法を習得するとともに、日常着の修繕など、管理に必要な縫製技術を身につけている。 (知識・理解) ・住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係などについて理解している。 |
| | | | 住居の機能、住居と地域社会とのかかわりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、安全で環境に配慮した住生活を営むことができるようとする。 | 第3章 住生活をつくる | | 住生活と家族の健康を理解させる。 (関心・意欲・態度) ・住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、快適な住まいづくりや安全な住まいづくりに意欲的に取り組もうとする。 (思考・判断・表現) ・ライフステージと住空間の設計の関係、住環境について考えを深めることができる。 (技能) ・住まいの役割・機能について、地域の特徴などを踏まえて調査・研究ができる。 (知識・理解) ・住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係などについて理解している。 |

| | | | | | | |
|---|-------------|-----------------------|--|------------------------------------|-------------|--|
| 3 | 1 2 3 | 第三編 消費者として自立 する | 生活における経済の計画、消費者問題や消費者の権利と責任などについて理解させ、現代の消費生活の課題について認識させるとともに、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任を持って行動できるようする。生活における経済の計画、消費者問題や消費者の権利と責任などについて理解させ、現代の消費生活の課題について認識させるとともに、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任を持って行動できるようする。 | 第1章 消費行動を考える 第2章 経済的に自立する | 4 6 6 | <p>消費生活と環境を理解させる。 消費生活と環境を理解させる。 (関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近い将来の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期・長期の経済計画について意欲的に取り組もうとしている。 ・自分の将来設計を職業選択、人とのかかわり、絏済設計などを通して意欲的に考えようとしている。 (思考・判断・表現) ・現在の絏済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えを持ち、判断できる。 ・自分の生活設計について、生活資源の要素を考えながら、考えをまとめることができる。 (技能) ・経済的自立に向けて、短期・長期の絏済計画にかかる実習を通して、人生設計を組み立てることができます。 ・短期的・中期的・長期的な生活設計をすることができます。 (知識・理解) ・家庭絏済・国民絏済などの仕組みについて理解でき、短期・長期的絏済計画の重要性を認識できる。 ・生活設計の必要性、意義について理解できる。 (関心・意欲・態度) ・近い将来の絏済的自立を考えながら、家庭絏済・国民絏済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期・長期の絏済計画について意欲的に取り組もうとしている。 ・自分の将来設計を職業選択、人とのかかわり、絏済設計などを通して意欲的に考えようとしている。 (思考・判断・表現) ・現在の絏済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えを持ち、判断できる。 ・自分の生活設計について、生活資源の要素を考えながら、考えをまとめることができます。 (技能) ・絏済的自立に向けて、短期・長期の絏済計画にかかる実習を通して、人生設計を組み立てることができます。 ・短期的・中期的・長期的な生活設計をすることができます。 (知識・理解) ・家庭絏済・国民絏済などの仕組みについて理解でき、短期・長期的絏済計画の重要性を認識できる。 ・生活設計の必要性、意義について理解できる。 |
|---|-------------|-----------------------|--|------------------------------------|-------------|--|

| 教科名 対象学年 | 情報 第1学年 | 科目名 対象コース | 社会と情報 全コース | 単位数 履修形態 | 2単位 必修 | |
|-----------------------|---|---|---|--|---------------------|--|
| 科目の目標 | コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用する態度を育てる。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | <p>(1)目的に応じた解決手順の工夫、コンピュータや情報通信ネットワークや情報通信ネットワークなどの適切な活用、伝達内容に適した提示方法の工夫などの実習を行う。</p> <p>(2)情報通信ネットワークやデータベースなどの活用を通して、必要とする情報を効率的に検索・収集する方法を習得するとともに情報発信に当たっての個人の責任、プライバシーや著作権への配慮など情報社会で必要とされる心構えについて理解する。</p> <p>(3)情報機器の仕組みと特性を理解し、情報化の進展が生活に及ぼす影響を身のまわりの事例などを通して認識し、情報を制圧に役立て主体的に活用しようとする心構えについて考える。</p> | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | A.関心・意欲・態度 | B.思考・判断 | C.技能・表現 | D.知識・理解 | | |
| | 情報や情報社会に 関心を持ち、身のま わりの問題を解決 するために進んで 情報及び情報技術 を活用し、情報社 会に主体的に対応 しようとする。 | 情報活用の方法を 工夫したり、改善し たりするとともに、情 報モラルを踏まえた 適切な判断をする。 | 情報の収集・選択・ 処理を適切に行うと ともに、情報を目的 に応じて表現する。 | 情報及び情報技術を 活用するための基礎 的・基本的な知識を 身に付けるとともに、 現代社会における情 報の意義や役割を理 解している。 | | |
| 教科書、教材など | 社会と情報(東京書籍) | | | | | |
| 授業形態 | 講義・演習(学級単位による授業) | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 單元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | 1章 | オリエンテーション 1.わたしたちを取り巻く 情報 ①情報とメディア ②信頼できる情報とは ③メディアリテラシー 2.アナログからデジタル へ ①情報のデジタル表現 ②デジタルだからでき ること 写真加工に挑戦しよう | 「社会と情報」の学習目 標と、シラバスについて 知る。 メディアの意味と特徴を 学ぶ。 情報の信憑性について 理解する。 情報を批判的にとらえる ことを知る。 文字、画像、動画像、音 のデジタル化の仕組 みを理解する。 デジタルデータの利 点と情報の統合につい て理解する。 画像処理ソフトウェアを用い て画像を加工する。 プレゼンテーションソフ トウェアでスライドショー を作成する。 | 6 6 8 | メディアの意味と特徴について理 解している。 情報の信頼性や信憑性につい て理解している。 メディアの特性を理解し、情報 を適切に判断している。 文字、画像、動画像、音のデジ タル化の仕組みを理解している。 デジタル化の利点と問題点を 理解している。 画像処理ソフトウェアを活用す ることができる。 スライドを効果的に作成するこ とができる。 |
| 5 | | | 3. 情報の表現と伝達 ①情報が伝わる仕組み | 情報の表現と伝達につ いて理解する。 | 8 | 情報伝達の仕組みについて理 解している。 |
| 6 | | | | | | |
| 7 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----|---|----|---|--|--------|---|
| | | | ②伝達のための表現と手段 ③プレゼンテーション 画像ムービーを作ろう | 情報伝達のためのメディアの選択やカラーバリアフリーについて理解する。 プレゼンテーションの意味やその発表・評価方法について理解する。 ビデオ編集ソフトウェアで見せたい順に写真を配置する。 | | 情報伝達のためのメディアの選択について理解している。 プレゼンテーションの意味と方法を理解している。 自分の意図した画像ムービーを作成することができる。 |
| 2 | 9 | 2章 | 1.インターネットの利用 ①インターネットの仕組み ②WWWと電子メール ③情報の検索 ④情報収集の注意点 2.ネットワークとコミュニケーション ①メディアの発達 ②誰でも表現者の時代 ③コミュニケーションの特徴 ④情報発信と注意点 | IPアドレスやパケット通信について理解する。 WWWや電子メールの仕組みについて理解する。 検索エンジンの仕組みとその検索方法について理解する。 情報収集を行う際の注意点について整理する。 メディアの発達について学ぶ。 ソーシャルメディアや、表現活動、情報発信について学ぶ。 コミュニケーションの特徴とその活用法について学ぶ。 情報発信の方法とその工夫・注意点について理解する。 | 2 8 | IPアドレスやパケット通信について理解している。 WWWや電子メールの仕組みについて理解している。 検索エンジンの仕組みとその検索方法について理解している。 情報収集を行う際の注意点について理解している。 メディアの発達について理解している。 ソーシャルメディアや、表現活動、情報発信について理解している。 コミュニケーションの特徴を理解している。 情報発信の方法とその工夫・注意点について理解している。 |
| 10 | | 3章 | 1.情報化の影響と課題 ①情報社会の影 ②情報モラル ③セキュリティ 2.法律と個人の責任 ①情報社会と著作権 ②個人情報の保護 | 情報社会のさまざまな問題について理解する。 情報モラルについて理解し、それを積極的に活用していくことを考える。 情報セキュリティについて理解する。 著作権について理解する。 個人情報について理解し、その保護や活用について理解する。 | 8 | 情報社会のさまざまな問題について理解している。 情報モラルについて理解している。 情報モラルを意識した対応をしようとしている。 情報セキュリティについて理解している。 著作権について理解している。 個人情報の保護について理解している。 |
| 11 | | | 情報を検索しよう レポートを作成しよう | 検索エンジンの使い分けについて整理する。 案内状を作成する。 レポートを作成する。 | 8 | 情報検索を効果的に行うことができる。 情報検索を積極的に工夫しようとしている。 文書処理ソフトウェアの特性を理解している。 案内状を作成することができる。 |
| 12 | | | 自分をPRしよう | 構成用紙にアイデアを書く。 構成用紙をスライドにする。 自己PRを発表する。 | 8 | 自己PRの内容を積極的に表現しようとしている。 自己PRの内容を効果的にスライドに表現している。 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 |

| 教科名 | 理科 | 科目名 | 物理基礎 | 単位数 | 2 単位 | |
|-----------------------|---|--|--|--|------|---|
| 対象学年 | 第1学年 | 対象コース | 研志コース(大学進学) | 履修形態 | 必修 | |
| 科目の目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 | | | | | |
| 学習内容の概要 | 1 物体の運動とエネルギー(物体の運動、力と運動、仕事とエネルギー) 2 物理現象とエネルギー(熱とエネルギー、波とエネルギー、電気とエネルギー、エネルギーとその利用) | | | | | |
| 科目の評価基準 (観点及びその趣旨) | A:関心・意欲・態度 日常生活や社会との関連を図りながら物理現象への関心をもち、自然現象に対して探求していく態度を身につけている。 | B:思考・判断・表現 物理や物理現象を通して、自然現象の中に問題を見いだし、科学的に考察した考えを表現できている。 | C:観察・実験の技能 物理や物理現象について、目的意識をもって観察・実験を行い、物理学的に探求する能力と技術を身につけている。 | D : 知識・理解 物理学の基本的な概念や原理・概念を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。 | | |
| 教科書、教材など | 教科書:改訂版物理基礎(数研出版) | | | | | |
| 授業形態 | 講義、問題演習、振り返りを含んだ形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験を行う。 | | | | | |
| 年間授業計画 | | | | | | |
| 学期 | 月 | 単元 | 単元の目標 | 学習内容 (実験・実習等) | 時間 | 評価 |
| 1 | 4 | 単位と次元など | 基本単位や組立単位、次元、有効数字の考え方を理解する。 | ・単位系 ・次元 ・有効数字 | 6 | 基本単位や組立単位、次元や有効数字の概念を理解している。 D |
| | 5 | 第2編 热 第1章 热とエネルギー 1 热と热量 2 热と物質の状態 3 热と仕事 4 不可逆変化と热機関 探究活動 | プラン運動などの観察を通して、原子や分子の热運動と温度の関係を定性的に理解する。また、热運動と物質の三態変化、絶対温度、潜热の関係を理解する。热量と热容量、比热の関係を理解し、热を定性的に扱えるようになる。 | ・絶対温度 ・热量の保存 ・比热と热容量 ・热力学第一法則 ・热機関 | 6 | 「热はなぜエネルギーの一様といえるのか」、のような発問に対し、積極的に興味・関心をもって回答している。 A |
| | 6 | 第3編 波 第1章 波の性質 1 波と媒質の運動 2 波の伝わり方 | 波の基本的な性質を理解し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなどを量的に扱えるようになる。また、横波と縦波の違いや、波の独立性、重ね合わせの原理を理解し、反射について観察や作図について学び、定常波ができる仕組みを理解する。 | ・波の基本公式 ・横波と縦波 ・定常波 ・波の反射 ・波の屈折 ・波の回折 | 8 | 熱量保存の式を立てるに際して、どの物体がいくらの熱量の授受を行ったかが判断できる。 B |
| | 7 | 第2章 音 1 音の性質 2 発音体の振動と共振・共鳴 探究活動 | 空間を伝わる音波は空気を媒質とする縦波である(真空中では音波は伝わらない)。「音の屈折・音の回折・音の干渉」を行い、音波の波としての諸性質を説明する。 | ・音の三要素 ・弦と気柱の振動 | 8 | いろいろな波の現象の存在を理解し、日常生活に存在する波動現象に关心を持ち、波の性質がどのように表れているかを結び付ける意欲や態度が見られる。 A 身近な現象の中にどのように波動現象が表れているかを考察することができる。 B 縦波と横波の相互変換や重ね合わせの原理から定常波やうなりなどを作図を通して表現できる。 C |

| | | | | | |
|---|---|--|---|--------|--|
| 2 | 8 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1 速度 2 加速度 3 落体の運動 | 物体の運動を測定し、その運動を変位・時間のグラフや速度・時間のグラフで表すことなどを通して、変位や速度などの物体の運動の基本的な表し方について理解する。 | ・速度の合成、相対速度 ・等加速度運動の式 ・自由落下 ・鉛直投射 ・水平投射 ・斜方投射 | 2 8 | 日常見慣れている様々な運動を、A物理的な現象として、動きの規則性やその動きを生じさせている原因を解明しようという意欲が見られる。 |
| | | | | | 自由落下や鉛直投射はいずれも等加速度直線運動の一種であること、斜方投射は鉛直方向には投げ上げ、水平方向には等速直線運動をしていることを理解している。 |
| | | | | | 運動の原因となる力を探る過程を通して運動の法則を理解し、さらに未知の運動を解くことができる。 |
| | | | | | 力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。作用・反作用の2力とつりあいの2力との相異点を説明できる。 |
| | | | | | 速度、加速度、力を実験器具を使って測定しながら運動を解析し、量的な関係を捉えることができる。 |
| | 10 第2章 運動の法則 1 力とそのはたらき 2 力のつりあい | 物体にはたくらく様々な力を見抜きベクトルで表す方法を身につけるとともに、それらの力がつり合う条件を見出せるようになる。また、運動の法則を理解し、これらの法則を用いて物体にはたくらく力と運動との関係を分析できるようになる。 | ・力の三要素 ・力の分解と合成 ・力のつりあい | 8 | 運動の原因となる力を探る過程を通して運動の法則を理解し、さらに未知の運動を解くことができる。 |
| | | | | | 力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。作用・反作用の2力とつりあいの2力との相異点を説明できる。 |
| | | | | | 力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。作用・反作用の2力とつりあいの2力との相異点を説明できる。 |
| | | | | | 力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。作用・反作用の2力とつりあいの2力との相異点を説明できる。 |
| | 11 3 運動の法則 4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受け る力 | 物体は力を受けると加速すること、また、生じる加速度の大きさは質量に反比例し、力の大きさに比例することを、実験をもとに理解させる。 | ・運動の法則 ・摩擦力 ・浮力・水圧 ・空気抵抗 | 8 | 速度、加速度、力を実験器具を使って測定しながら運動を解析し、量的な関係を捉えることができる。 |
| | | | | | 速度、加速度、力を実験器具を使って測定しながら運動を解析し、量的な関係を捉えることができる。 |
| | 12 第3章 運動と力学的エ ネルギー 1 仕事 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの 保存 | エネルギーを測るものさしとしての仕事の定義、および仕事の原理と仕事率について理解し、また、仕事をする能力としての運動エネルギーと位置エネルギーの表し方を理解する。力学的エネルギー保存則やその適用条件について理解を深める。 | ・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギー保存則 | 8 | ものが運ばれるという事実を物理的な現象として捉え、運ばれた量と運ぶもとなる動力源について、様々な類似事象を比較し、事象に共通する量的な関係性を探ろうとしている。 |
| | | | | | 仕事をする能力について、位置、運動、熱といった一見異なるエネルギー間に換算できる量的法則性があることを理解し、応用して考察できる。 |
| 3 | 1 第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1 電気の性質 2 電流と電気抵抗 3 電気とエネルギー | 静電気や電流など、電気に関わる法則を学習し、さらに発電機や交流と電磁波の関係について理解する。 | ・電荷と電気量 ・抵抗率と合成抵抗 ・電力と電力量 | 4 | 物体の中にある電荷の振る舞いについて観察でき、実験を再現できる。電流計、電圧計、検流計などの測定器を正しく使える技能を身につけ、グラフ処理などを通じて法則性を確認できる。 |
| | | | | | 電荷と電気量について観察でき、実験を再現できる。電流計、電圧計、検流計などの測定器を正しく使える技能を身につけ、グラフ処理などを通じて法則性を確認できる。 |
| | 2 第2章 交流と電磁波 1 交流 2 電磁波 | 人類が利用することができる各種エネルギーの特性や利用方法について学ぶ。 | ・交流と直流 ・交流の性質 ・電気の利用 ・電磁波 | 6 | 電気と磁気に関する基本的な概念や原理・法則を理解できる。またそれらの概念や原理・法則を用いて系統的に考察できる。交流や電磁波の基本的振る舞いについて知識があり、理解できる。 |
| | 探求活動 | | | | 電気と磁気に関する基本的な概念や原理・法則を理解できる。またそれらの概念や原理・法則を用いて系統的に考察できる。交流や電磁波の基本的振る舞いについて知識があり、理解できる。 |
| | 3 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとそ の利用 1 エネルギーの移り変わり 2 エネルギー資源と発電 第2章 物理学が拓く世 界 | これまで学習した物理が私たちの社会でどのようなものに応用されているかを学び、物理を学ぶ意味について理解する。 | ・エネルギーの変換 ・原子力 ・太陽光 ・その他のエネルギー資源 ・摩擦と自動車 ・エネルギーの有効利用 ・見えないものを見る | 6 | 日常的に利用されているエネルギーについて興味・関心を持ち、その特徴などについて考えようとする。 身近に利用しているエネルギーについて観察して、それらの特性を理解できる。 物理的な側面からエネルギーをきちんととらえることができる。 |